

考按簿

十六年

完

二	五	第十類
七	册	
函	架	

国立公文書館

分類

2 A

排架番号

34-2

① 1562

1.562



第八陸

砲工兵上等監護及樂長犯罪處分、件

第七農

徵兵使巡行定期前着手、件

第六陸

海軍刑法中將校、件

第五

徵兵ノ儀ニ付建議

第四陸

武官官記及職記式改定、件

第三農

滿役下士文官採用規則制定、件

第二陸

徵護令第十五條第四項、件

第一

第六年報自十三年七月至十四年六月

第九 海 徵發事務條例ニ矛盾違廢止ノ件

第十 同 監視處分ノ件

第十一 同 水路局技術官加俸廢止ノ件

第十二 陸 徵兵免役料怠納者處分ノ件

第十三 海 寡婦孤兒扶助料ノ件

第十四 陸 海軍准卒徵集ノ件

第十五 海 海軍准卒徵兵應募猶豫ノ件

第十六 同 海軍技術官判任以下停業時間外増働

料支給表中改正ノ件

第十七 陸 參謀科將校ヲ以テ充ツヘキ職務ハ參

謀官ノ職務ト称ス

第十八 海 在監人給典規則ノ件

第十九 同 少主計石山貞家處分ノ件

第二十 同 海軍服制改正ノ件

第二十一 陸 陸軍武官官等表改正ノ件

第二十二 同 行政事務報告書

第二十三 同 馭卒中村三之助犯罪處分ノ件

第二十四 同 後備軍艦員ヲ常備員ヘ轉任ノ件

第二十五 海 外國航海中患者給與規則ノ件

第二十六 陸 徵發事務條例第八條立會證人ノ件

第二十七 陸 會計軍吏副安東義則犯罪處分、件

第二十八 海 叙勲條例、件

第二十九 大 受恩典者印紙賣捌、件

第三十 陸 朝鮮事變、際死没セシ堀本工兵中尉

等遺族扶助料、件

第三十一 陸 犯罪拘留中病死、者祭案料下賜、件

第三十二 同 輜重兵科士官補填、件

第三十三 同 在海外各國公使館附陸軍將校年俸、

件

第三十四 内 恩給受領者罪犯公權利奪、者登録写

帖収奪、件

第三十五 徴發費用怠納者處分、件

第三十六 陸 生兵日下與三郎犯罪處分、件

第三十七 海 官有船舶表報告、件

第三十八 同 海軍中へ教官ヲ被置度件

第三十九 陸 結婚條例中砲兵監護ヲ増加シ徴兵

者病卒ヲ除キ度件

第四十 陸 陸軍恩給令海軍恩給令、件

第四十一 海 海軍下士以下懲罰則中改正、件

第四十二 陸 罪犯取扱手續書式、件

第四十三海 輕懲役六年因元海軍一等水兵中村竹

二郎特典放免ノ件

第四十四内 徵癸費急納額先取特權順序ノ件

第四十五陸 後備兵服役ノ者養子ノ件

第四十六海 海軍在監人給與規則改正刪除ノ件

第四十七大 恩給及扶助料支給方ノ件

第四十八陸 監獄則制定ノ件

第四十九海 海軍教官大禮賤ノ件

第五十 同軍人恩給寡婦孤兒扶助料支給方ノ件

第五十一 陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ヲ禁錮拘

留ニ換フルノ件

第五十二海 海軍賤制ノ件

第五十三陸 恩給令取扱方ノ件

第五十四 同 徵叢令第十條ノ件

第五十五海 待命俸非職俸定ノラレ度件

第五十六陸 憲兵條例中改正ノ件

第五十七海 賤制改正期限ノ件

第五十八陸 主兵日下與三郎死刑決行ノ件

第五十九海 海軍服裝規則ノ件

第六十陸 七田兵犯罪處分ノ件

第六十一 海技術官官等并給額改正、件

第六十二 同海軍兵員徵募規則改正、件

第六十三 陸武官結婚条例第七第八条へ追加、件

第六十四 同徵兵令改正、件

頁一

明治十五年一月二十六日

三月廿二日付

軍事部長官

三查

（蓋）

海

官

官

補

（蓋）

（蓋）

（蓋）

陸軍省中一砲工兵上等監護長犯罪主名、件

大正政官

明治十五年十二月

議長

副議長

書記官

主査高田

軍事部長山口

議官

議官中田

議官補渡田 曾祚

法制部長林

議官

議官積實

議官補周市 山根

上加千六十八年

別紙陸軍省上申砲工兵上等並護及軍樂長犯罪
處分方ノ件聯合部會議ヲ以テ審査決議スル
左ノ如シ

陸軍砲工兵上等並護及軍樂長ハ所謂准士官

タルヲ以テ固ヨリ陸軍刑法ヲ奉スヘキ者ナ
リ然ルニ同法中其明文ヲキヲ以テ疑團ヲ生

スル恐モ有之ニ付犯罪ノ時ハ將校ト同シク
處断スヘキ旨達セラレ度トノ趣意ニシテ此
成規ヲ定ムルヲ緊要ト認ム
右ニ由リ達按左ノ通ニテ可然式上申矣也
達按

陸軍省

成按附弟ノ通リ

明治十六年一月十六日

議長 山野

書記官 大森 三郎

副議長 田中

主査 高田

軍事部長 田中 議長 田中 議官 補渡 秋吉

別紙陸軍省向徴兵使巡行定期前着手ノ件部會
議ヲ以審查決議スルノ如シ

徴兵使巡行ニ二月十五日ヨリ始メ四月十日ヲ以テ
相終ル成規ナリト雖モ現今徴兵事務繁多ニシテ右
定期日數ニ結了致柔候ニ付鎮臺府縣ニ於テ検査
準備ノ上ニ二月十五日以前ヨリ遠近ニ巡行爲致度旨
ナリ右ニ實際期限ノ短縮ナルニ着テ候義ニ付検査

準備の上、適宜日限ヲ擧上ケル行候トモ不都合無ク、ハ上請、通御聽許相成リ想者トス
右ニ由リ指令案左ノ通ニテ^ナリ然^ナ上申也

指令案

伺ノ趣聞而復事

明治十六年一月十八日

三月廿日送付

明治十五年三月十日

軍事部長

三直



海軍官廳

海軍省



海軍省上請海軍刑法中改正件

乃之存修云、如、少違お下ら然上認公
右、中、連象左、通、可然、或、上申、也
連象

海軍省

海軍准士友海軍刑法、罪ヲ犯ス多ク時、總
ヲ將校ト同シク、或、罰、ヲ、可、キ、係、ト、可、キ
心、得、以、各、於、連、象、事、
明治十六年一月九日

明治十六年一月九日

議長 有朋

書記官 大森久徳

副議長 〇

主査 高田

軍事部長 代理 議官 光坂 議官補 長谷川 秘書

内務部長 議官 島田 議官補 若尾 理事 村上

財務部長 光 議官 如 議官補 岩崎 中山

別紙陸軍省ヨリ徴兵ノ義ニ付建議、件聯合部

會議ヲ以審査決議スルノ如左

陸軍省ヨリ徴兵ノ義ニ付建議、趣ヲ極スル

外務省
= 徴兵法、他ノト並行スルニアラソシハ徴
兵令ノミ何程改正スルモ其切ヲ奏セサルニ
ヨリ相待テ施行スヘキ處置ノ建議ニシテ其
要領三件アリ第一戸籍法ニ関スルヲ第二逃
亡失踪者處分ノヲ第三地方廳ニ徴兵課ヲ置
カレド是ナリ然ルニ第一ニ云フ戸籍法ニ関
スルヲ閣議已ニ戸籍規則改正ノ議アリ不
日將ニ施行セラレントス唯建議ニ云ルカ如
ク戸長ニ限リ戸籍ヲ加除スルノ法ヲ廢止セ
スト雖モ改正ノ管理法ニ於テハ従前ノ如ク

擅ニ加除ヲ為スノ弊害ハ除去シ加之同規則
施行ノ上ハ徴兵法ニ自ラ便宜ヲ與フヘキモ
ノアラントス故ニ此件ニ執テハ更ニ詮議ヲ
要セサルモノトス又第二ニ云フ逃亡失踪者
處分ノヲハ素ヨリ適應ノ處置ナカルヘカラ
スト雖モ刑法ニ逃亡失踪ノ罪ナキヲ以テ顯
然徵募ヲ規避スルモ之ヲ罰スル能ハス將々
行政上ニ於テ別段ノ法ヲ設ケントスルモ徴
兵適齡者ノ為リ一般人民ヲモ檢束スルノ法
ヲ布クヘカラス又二十歳未滿ノ者ニ限リ特

ニ法ヲ施ス能ハス抑逃亡失踪ヲ制セントス
ルハ畢竟徵募ニ應セサルヲ憂フルニテ故
ニ徵兵ノ調査法ヲ嚴密ニシ且徵募ニ應セサ
ル者ノ罰則ヲ徵兵令中ニ設クルヲ適當トス
即今同令改正ノ調査中ニ付具方策ニ罰則ヲ
設ケ不日上呈セントス而シテ又第三ニ云ル
地方廳ニ徵兵課ヲ置カントノ語ハ尤適當ノ
事ナリトス已ニ目下各府縣ニ於テ徵兵事務
ヲ擔任セシムル官吏ノ等級人員等各廳區々
ニシテ同一ナラス即チ別表ニ掲クル如シ然

ルニ現今兵事ニ関スル地方ノ事務漸次増加
シ處分上專任ノ一課ヲ置クニアラスニハ厚
ク擔當セシムル能ハス特ニ先般地方長官ハ
勅諭ノ趣モ有之并陸軍省ヨリ徵兵ノ義上
表ニ付地方官ハ御内達ノ趣モ有之其責任ヲ
盡サシムルニハ相當ノ僚屬ヲ與ヘサルヲ得
ス本件ハ此際御採用相成去ル明治八年ニ
學務課ヲ置キ同十三年ニ衛生課ヲ置キタル
カ如ク自今各地方廳ニ兵事課ヲ設置スルヲ
緊要トス果シテ然ラハ處ニ徵兵ノ丁ノミナ

ラス陸海軍生徒水火夫ノ募集其他恩給等ニ
関スル諸般ノ事務ヲ整理シ陸海軍ニ関スル
事績ヲ擧クルニ至ラントス而シテ建議ニモ
載スル如ク其僚屬ニハ陸軍満期下士ヲ交ハ
採用セシムルヲ要ス依テ増課ノ義御聽許ノ
上此際御施行相成可然ト認視ス
右ニ由リ達案左ノ通ニテ可然執上申候也

連按

府縣札幌根室沖繩
三縣ヲ除ク

陸海軍兵事ニ関スル事務取扱ノ為ヨ自今兵

事課ヲ置キ俸給トシテ年額金六百圓増加候
条判任官適宜増員可致此旨相達候事

但年度ノ儀ハ月割ヲ以テ大藏省ヨリ可受

取事

同

大藏省

今般府縣ニ兵事課ヲ置キ候ニ付別紙ノ通相
達候条本年度ノ儀ハ豫備金ノ内ヲ以テ渡方
可取計此旨相達候事

明治三十二年七月三日

同

内務省

各府縣廳ニ兵事課設置、義別紙、通相達候
条為心得此旨相達候事

明治十五年一月二十三日

五

明治十五年十一月五日

軍事部長

主査 (高田)

海官

海官補



武官官位及職証式改定、件

明治十五年十月

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長 議長 中議官 補佐 出立 行 日

上列ノ十九年

武官ノ儀式及職記式改定ノ件 部會議ヲ以テ審本立決
議ス下如左

陸海軍武官ノ文官ニ任用ノ節ハ是迄陸海軍ニ於テ破格ノ
右無ク同ク其身既ニ武官者ニ更ニ文官ノ加ヘ其武官
ヲ免セザル限リハ必ス兼任ト稱ス(十例) 従来官記ノ成規ニ據ル

然ルニ其本官アル者ニ兼官セシム時ハ之ヲ兼任ト稱スルニ文官相
 通シテ用フルノ法ナリト雖モ元來武官タル者ハ文官ト其趣ヲ殊ニス
 ル者ナラハ陸海軍ニ於テ常設アル武官ヲ文官ニ任ス時ハ之
 ヲ兼任ト稱スル又其陸軍後備軍艦員ノ如キハ各自本官ヲ
 存スルモ平素常設ナキヲ以テ之ヲ兼任ト稱スルカラサル者ナリ故
 ニ在成武官ニ他ノ官名若クハ職務ヲ存スル法ヲ設メ及ニ後備
 軍艦員ヨリ文官ニ任用ス者ニ至ル武官ト雖モ今文官ニ任シ後
 ナ艦員トシテ地位ニ轉ス者モ亦同シ其兼任ノ稱ヲ應シ專任
 ノ官記ヲ用ヒ俱ニ名實相通センカカ為テ武官ノ官記并ニ艦記
 或ハ文官ト別種ニ添改定相成候方可然乃チ大ニ其理由

并ニ改定ノ方法ヲ開陳ス

其一 武官ノ文官ト其趣ヲ殊ニスルハ將校免黜懲例第一條
 ヲ以テ知ルヘシ其條中開載ノ六原由ニ因ルニ決シテ
 其官階ヲ失フナク決シテ免官セラル可キ者ニ決ス即チ
 是レ終身官ナリ凡ソ武官タル者ハ其初メ兵費ニ入ルヤ
 禁テ陸海軍ノ出身ヲ望ミタル者ナレハ陸海軍ニ没事
 スルノ外他ニ念慮ナク他ニ技能ナク他ニ生計ノ途ナキ
 者トス故ニ終身陸海軍ニ奉仕シテ年老ニ用ニ中ラ
 カルニ至ルハ恩給ヲ受テテ以テ一世ヲ畢ル者ナリ故ニ其
 官階ハ終始之ヲ有テ假令ニ中絶シテ在職非職退廢

羅役等ノ地位ニ轉スルアリト雖モ決シテ其官級ヲ離
ル、イナキ者トス是ヲ以テ武官ノ官ハ終身ノ固有物ニシ
テ文官ノ官ト別異アル所以ナリ其文官ニ在テハ官ト稱ト
ノニ稱アルモ官アレハ必ス職アルモノニシテ官ト稱トノ相離
レサル形影ノ如シ且文官ハ出身ノ初メ何レノ者何レノ事
務ト終身ヲ誓テ奉仕スル者ニ非サレハ今日集ノ顯職タルモ
一旦於テ羅メラルレハ明日ハ本籍ノ華士族平民ノ身
分ニ歸ス故ニ國典アリ此功勞ニ酬ルニ夫ノ位階ヲ設ケ
其功勞ノ輕重ニ因リテ次序ニ謹責アルニ非ルヨリハ故
ラ之ヲ稱奪スルイナク以テ其一世ヲ禮遇セラル即チ位

大正政

階ハ其身ニ屬シ官級ハ其職ニ屬スルナリ武官ニ至リテハ
則チ然ラス官アリテ職ナキ者アリ非テ傳授解除ノ如キ
是ナリ官アルモ殊ニ間曠ニシテ違職アル者アリ後備軍
團兵軍ノ將校ノ如キ是ナリ官アルモ既ニ軍事ニ役セサ
ル者アリ退修羅役將校ノ如キ即チ是ナリ故ニ武官
ノ官階ハ固有物ニシテ殆ント位階勲等ニ相類スル者ナリ
十三年財第五十七号ノ達ニ退職羅役ノ將校ハ有位有
勲者ト同ク身分ノ取扱ヲ改定セラレタムモ亦此意ニ外
ナラサルヘシ

具ニ 西洋ノ例ニ據ルニコロネル(大佐)カビライン(大尉)等ハ

是ニ由テ之ヲ觀シハ被拜ノ官名ハ全ク等級ノ名ニシテ
進級ノ度ヲ示ス者ナリ本邦ト雖モ此義ニ於テハ異ナル
爲ヤルヘシ馬シテ等級ノ名ナル時ハ文官ノ官ノ職名ナ
ルト全シキ者ニ非スレラ全ク位階ニ均キ者ナリ又職名
ト官階トノ異ナル所以ノ例ヲ舉シニ夫ノ米國ノグラント
ヲ稱スルニエキスアレシデント(前ノ大統領義)ト稱スルヨ
リモゼネラル(大將)ト稱スルノ居多ナルカ如キ是レナリ
之レ文官ハ其職ニ屬シ武官ハ其身ニ屬スルヲ以テ即チ
其人ヲ稱スルニ其身ニ附キタル官階ヲ以テスナリ

其三

右兩條ノ理ハアルカ故ニ武官ノ官名ハ全ク官階ト定メ
文官ノ官名ト之ヲ別チ今ヨリ後官記ニ武官ノ本官ナ
リト雖モ常職ナキ者ヲ更ニ文官ニ任セラルニハ兼任ト稱
ヤル事ニ改メラレ可シ此ノ如クシテ如クテ官階タレ武官ノ
官名性質ニ通スヘキナリ尚ホ之ヲ詳説セハ武官ノ官ハ
本官ノ位階ト同性質ノ者ト爲シ其區域ヲ明ニセラ
ルレハ武官ノ職名ハ文官ノ官名ト性質ノ者タルノ亦
隨テ明カナルヘシ因テ向後武官ニ官階ヲ余スルニハ官
記式ハ僅前ノ如ク任ノ字ヲ用ヒ職記式ニハ總テ補ノ
字ヲ用ヒラル事ニ改メラレヘキナリ即チ職ヲ余スル

ニハ補ノ字ヲ用フルハ如シテハ其ノ職ノ新設ノ事ニ
 似たり尤モ其ノ職ノ新設ノ事ニ似たり
 補ノ字ヲ用フルハ其ノ職ノ新設ノ事ニ似たり
 スルノ憂アリハカクテ其ノ職ノ新設ノ事ニ似たり
 フヘキナリ
 ル者ハ後裔ヲカフトリキハ前代ニ對シテ其補ノ事
 シ或ハ其官ヲ兼ふルルキハ兼任ト稱スハ其事
 ニ定ムラレハキナリ其官記式并ニ其記式ハ別紙
 ニ具ス

其四 前條ノ如ク定ムラレシニ宜ク布達ヲ以テ武官ノ官

銜ノ武官ニ異ナル旨ヲ示サルヘシ蓋シ是迄ノ慣例
 或ハ武官ト混同シ官記ニ單一ニ任其官ト書スルハ
 前官消滅ノ嫌アリニ因リ現職ナキ武官ヲ武官ニ任
 スルニモ常ニ兼任ノ名ヲ用井来レリ故ニ改メテ其布達ナ
 キトキハ人其兼シテ見テ前官罷免ノ感ヲ惹キ
 起スニキヲ以テナリ尤モ軍秩官階ノ一等ヲ進メタ
 者例之ハ大尉ノ大佐ニ中佐ノ大佐ニ任セラレハ如キ
 ハ即チ昇級ニシテ其前官ハ自ラ滅スル例ナリハ
 明カナリト雖モ是ニ書式中ニ示サルハ彌ヒ明晰
 ナリ與フニ至ルヘシ

ニハ補ノ字ヲ用フルノ古例アリニ依レハ其字義允當ナ
ルニ似タリ尤モ現今文官ノ出仕官及教導修官等

職原救中職ヲ命ズル職ノ字ノ用ハ古例アリト雖モ武官ノ階名トハ混同
族非遺使
但列當以下為宣下職為府府之人補之又留使補者皆長
六十六人

獎學院列當
源氏公卿為第一之人補之
其他列當補者皆
藏人等
頭二人
五位藏人

四位殿上人中清操之職也辨古ノ人補之
五位殿上人中名家諸弟孫其器用補也
ニ定ムラルヘキナリノ所官記或并ニ破記式別紙
ニ具ス

其四 前條ノ如ク定ムラレシニ宜ク布達ヲ以テ武官ノ官

銜ノ士官ニ異ナル旨ヲ示サルヘシ蓋シ是迄ノ慣例
或ハ文官ト混同シ官記ニ單一ニ任其官ト書スレハ
前官消滅ノ嫌アリニ因リ現職ナキ武官ヲ文官ニ任
ズルニモ常ニ兼任ノ名ヲ用弁来レリ故ニ改メテ其布達ナ
キトキハ人其兼シ字無キヲ見テ前官罷免ノ意ヲ惹キ
起スニキヲ以テナリ尤モ軍秩官階ノ一等ヲ進マタム
者例之ハ大尉ノ次佐ニ中佐ノ大佐ニ任セラレハ知ナ
ハ即チ昇級ニシテ其前官ハ自ラ滅スノ例ナルヘハ
明カナリト雖モ是ニ書式中ニ示サルハ彌々明晰
ヲ與フニ至ルヘシ

ニハ補ノ字ヲ用フノ古例アリニ依レハ其字義尤當ナ
 ルニ似タリ尤モ現今文官ノ出仕官及教導修官等
 ニ補ノ字ヲ用フ例ナリト雖モ武官ノ階名トハ混同
 スルノ憂アルハカラス故ニ般ノ武職ニハ補ノ字ヲ用
 フハキナリ且又其武官現時既ニ一ノ階名ヲ奉ス
 ル者ニ後修ヲ加フトキハ前修ニ對シテ兼補ヲ稱
 シ或ハ武官ヲ兼ふルハキハ兼任ト稱スハキ事
 ニ定ムラレハキナリ武官記式并ニ職記式ハ別紙
 ニ具ス

其四 前條ノ如ク定ムラレニ宜ク布達ヲ以テ武官ノ官

銜ノ士官ニ異ナル旨ヲ示サルヘシ蓋シ是迄ノ慣例
 或ハ文官ト混同シ官記ニ單一ニ任其官ト書スレハ
 前官消滅ノ嫌アルニ因リ現職ナキ武官ヲ文官ニ任
 スルニモ常ニ兼任ノ名ヲ用テ来レリ故ニ改メテ其布達ナ
 キトキハ人其兼シ字無キヲ見テ前官罷免ノ意ヲ惹キ
 起スニキヲ以テナリ尤モ軍秩官階ノ一等ヲ進メ文
 者例之ハ大尉ノ少佐ニ中佐ノ大佐ニ任セラレハ如キ
 ハ即チ昇級ニシテ其前官ハ自ラ滅スル例ナリトハ
 明カナリト雖モ是ニ書式中ニ示サルレハ彌々明晰
 ナラズニ至ルヘシ

其五 第三條ニ述ルカ如ク海軍改定相成候ハ陸軍後
 備軍艦員ノ文官職務ヲ奉テハ即チ專任シテ
 兼任ニ派スナリ然レハ後備軍ノ艦員條例第十六條
 以下ナル派スル旨召集又ハ定例復習ノ時速ニ其
 召集ニ應ズヘキ旨ノ文ヲ前降シ唯其戰時ニ
 非常ノ節ノニ召集ニ應ズルハ即チ改定相成可
 然ナリ河ハナレハ戰時又ハ非常ノ時ハ後備軍
 ハ勿論全國ノ國民軍ヲモ募集スヘキ揚ルナレハ假令
 文官專任ノ艦員多ク且速ニ召集ニ應ズヘキハ勿論ナ
 レモ然レシテ平時定例復習ノ度毎ニ屢々召集ス

ル時ハ現任ノ文職上ニ多クノ障礙アリヘキヲ以テナ
 リ
 又按ズルニ後備軍艦員ノ平時定例復習ノ召集ヲ
 省ントスルハ全ク文官職務上ノ障礙ヲ惹ルベクニ
 リ然ルニ後備軍員ノ又及ニ任セラルル中ノニ勅奏任
 官タル者アリ又判任官ト為ルモアルヘシ而シテ其判
 任官ト為ル者ノハ十八假令平時定例ノ復習ニ
 召集スルモ其旨ニ其旨ニ大ナル障礙ヲ與ルヘ
 アル可カラズ唯其障礙ヲ慮ルハ奏任以上ノ官位ニ
 入ナリ故ニ該條例第十六條ハ屬文ノ儘ニ採ル可

更ニ左ノ但書ヲ加ル方可然歟

但勅奏任官ニ奉陪スル者ハ臨時及非常ノ際ヲ除クノ外平時定例復習ノ時ニ召集スルノ限リニ在ラス

其六 若シ第三條ノ旨趣ニ改定セラレ常例ナキ武官ヲ文官ニ專任ノ事トナルトキハ朝拜及ヒ奉賀等ノ時身分ノ取極并ニ服色ノ制ニ差支アルヘシト云フノ疑議モ亦生スヘキカ然レモ元來武官ノ官階ハ終身禮款ヲ享クヘキ為メニ寵賜セラレシ者ナレバ此ノ如キ儀式ニ臨ミ即チ身分ノ輕重ニ關スル取

扱ニ甘テハ武階文階何レモ其重キ方ニ從フテ之ヲ待遇相成可然乎例之ハ後備軍ノ士官ニシテ判任ノ文官ニ任スル者ハ朝拜奉賀等ニハ武官ノ正服ヲ着用シ平常其文職ヲ奉ズル時ハ一般通常服ヲ用フルモノト為シテ支障無キモノナリ

其七 若シ前數條ノ旨趣ニ改定セラレシテ一ラ舊慣ニ仍リ後備軍艦隻ノ如キモ文官ニ任スルハ兼任ハ許サレ得サレモノトナストキハ其之ヲ採用スルノ官廳ニ於テハ實際ニ多少ノ障礙アリ為メ其議ヲ寢ル者アリト聞ケク果シテ然ルトキハ人材登用ノ際ニ在リ

之ヲ採ラント歎スル方ニハ適任ノ人ヲ其職ニ得スレ
テ礼旨緩曠濶ノ患アリ又其被採人ヨリ之ヲ言ハ
更ニ文政ヲ弄シテ大ニ勉勵スル所アラント歎スルモ
空ク規則ニ未達セラレテ遂ニ其志ヲ得ザルノ歎ア
ルヲ免カレズ然リト雖モ今此兩碍アルカ為メニ後
軍 軀員ヲ免シ武官ヲ全ク罷免シテ一ニ文武官
ニノミ之レ任セントスルトキハ年未養成セシ武官
即チ多ク年武事ニ熟練ノ一能士ヲ以テ他ノ文
事ニ用フルカ為メニ一朝其固有ノ武官ヲ失フ
トトナリ其存人ヨリ之ヲ言ハハ國家寵賜ノ官

階終身固有ノ榮譽ヲ失ヒ殆ント罪ナクシテ褫
奪ヲ蒙ルノ思想ヲ惹起カシムルヲ保タス其措置
俱ニ遺憾ナキ能ハス仍チ本案建議ノ如ク自今
官祀式及職祀式ヲ改定セラルルハ文階武職俱
傷害スル所ナク制度其宜キヲ得テ所謂一擧
兩全ノ澤ナラン乎

右陳述ノ方法ヲ以テ武官ニ祀式并職祀式ヲ改定相
成可然哉達案ヲ具シ上申儀也

地
政
館

此附美ノ一事件ヲ除キ
其他ニ支ニ少シクハ
其ノ可
然レドモ

此處ニ姑ク癸令ヲ猶豫スル者

海運案

官省院廳府縣

明治十三年四月身於五号達後補軍艦員條例
第十号條(左ノ但書追加候條此旨相違候事)

但勅委任官ニ奉成スル者ハ戰時及ニ非常ノ際ヲ
除クノ外平時定例復習ノ時ニ召集スルノ限リニ
在ラス

林
政
備

明治十一年正月二十四日
官省院廳府縣
神達案
明治十一年正月二十四日
官省院廳府縣
神達案

神達案

官省院廳府縣

明治十一年正月二十四日
官省院廳府縣
神達案

明治十一年正月二十四日

但後備軍 軀多并ニ退穢或ハ能級ニシテ文官
ニ任スル者ハ其文官ノ禮服ヲ着用スルヲ妨ケナシ

大
文
官

政
備

達案

官省院廳府縣

武官官記及職記式改定ノ儀別紙ノ通陸海軍兩
省ノ相達候条為心得此旨相達候事

年月日

太政大臣

陸軍省
海軍省
文部省
内務省
大藏省
農商務省
司法省
勸業省
逓信省
文官制

大藏省

文官制
陸軍省
海軍省
文部省
内務省
大藏省
農商務省
司法省
勸業省
逓信省
文官制

文官制

逓信案

陸軍省
海軍省
文部省
内務省
大藏省
農商務省
司法省
勸業省
逓信省

武官官記及職記式別紙、之通改定、其條此旨相
達、其事、

但従前、又官ヲ兼任スル武官ノ官記及、現從武官
ノ職記ニ從テ改定ノ式ニ準、據スルナリト、以テ後、
以テ、
明治二十九年一月廿四日

武官進級及轉任例

陸軍少將位敷氏名
任陸海軍中將
太政大臣位敷氏名奉
年月日

武官進級及轉任例

進級及轉任ハ勅任奏任共一般ノ官記式ニ異ナルナシ

第二 武官ニシテ文官ニ任官ノ例

陸(海)軍中將位勲氏名
任參議
太政大臣位勲氏名奉
年月日

武官ヲ文官ニ任スルハ兼任ノ称ヲ用
ヒスレバ此例ニ由ル其武官ノ免職各例第一條
ノ原由ニテラサレハ免ラレサルカ故ニ文官ニ任ス
ト云ヒ武官ハ固ヨリ之ヲ有ス其補職ナク
シテ文官ニ任ヤルル者ハ文官ヲ以テ專任トス
又文官ヲ免スルトキハ(免参議)ト書ス^{如之}
兼任官記ニ直奉ノ別アルニシテ其書式ハ
之ニ準ス第三例ニ亦全シ
署名
参議陸(海)軍中將位勲氏名
位階勲等アル者ハ官位勲氏名
ト書ス以下略之

第三 武官ニシテ文官任官ノ者他ノ文官兼任ノ例

参議陸(海)軍中將位勲氏名
兼任議定官
太政大臣位勲氏名奉
年月日

前例ノ外ニ尚一官ヲ兼シムル時ハ此例ニ由
リ兼任ト書ス
署名
参議兼議定官陸(海)軍中將氏名
若シ數官兼任スルトキ官名ノ順ニ由テ書ス

第四二武官補職及兼補ノ例

又兼補之者ヲ免スルハ「免兼職」ト書ス 餘皆之ニ倣ヒ奏任官
ニ此例ニ準ス

陸軍中將氏名

補近衛都督

年月日

太政官

陸海軍 職官 職務ヲ命スルハ
補スト書ス本補ノ外尚ホ一職ヲ兼シムル
トキハ兼補ト書ス

署名

近衛都督陸軍中將氏名

職務ヲ免スルトキハ「免兼職」ト書ス

又前職ヲ免シテ後職ニ補スルトキハ「免兼
職補某職」ト書ス 倣之

奏任官ハ太政官ト書ス 陸(海)軍省ト
書ス

第四例ノ二

海軍中將氏名

補東海鎮守府長官

年月日

太政官

總テ前例ニ同シ

署名

東海鎮守府長官海軍中將氏名

第四例ノ三

歩兵大佐氏名
 補歩兵第一聯隊長
 年月日
 陸軍省

武官職名表記載ナル職務此例南
 下補近衛隊職務ニ持(補近衛
 何兵大隊長)ト書シ其他各兵隊号
 職名或(補某鑓臺參謀)又(補某
 局長)ト書ス候之

第四ノ四

海軍大佐氏名
 補何艦長
 本年大月日
 海軍省

署名
 何艦長海軍大佐氏名
 此例ノ補近衛隊職務ニ持(補近衛
 何兵大隊長)ト書シ其他各兵隊号
 職名或(補某鑓臺參謀)又(補某
 局長)ト書ス候之

陸軍省

年月日

步兵大佐氏名

補歩兵連隊長

兼可兼尋

兼軍吹出隊長

武官職名表載...
 兼可兼尋...
 兼軍吹出隊長...
 陸軍省...
 年月日...

第五 武官補職ノ者文官兼任例

近衛都督陸軍中將氏名

兼任議定官

太政大臣位勲氏名奉

年月日

陸海軍部内ニ補職ノ者其職ヲ免セス
 シテ文官ニ任スルトキハ第二例ニ依ラスニテ
 之ヲ兼任ト書ス

署名

近衛都督兼議定官陸軍中將氏名

此例ノ兼任ハ武職ヲ専務トシ文職ヲ兼
 務トスルカ故ニ官名ト職名トニ拘ラス専務
 ヲ首トシ兼務ヲ後トス

兼任官モ此例ニ准ス

判任官記式

従前ノ式ニ依ル但判任官ノ後備軍 艇員ヲ文官ニ專任
スルトキハ第二例ニ准シ任某官ト書ス

明治十五年一月

軍事部長

三查

議官

議官補



陸軍省上申湊役下士官採用規則制定ノ件

明治十五年十一月

議長

書記官

副議長

主査者

軍事部長官

議官

議官補 滋長 政 勇 孫 志 田

上分千五百十四年

別紙陸軍省上申満役下士文官採用規則、件部
會議ヲ以テ審査決議スル方、如シ

本件ハ下士ヲ以テ長ク服役セリ且其志願者ヲ獎
勵スルニ於テ最モ緊要法トス其理由ハ上申

書ニ奉テ以テ茲、復、勢セ又

右ニ申、布達案五ノ通、可然於上申也

布達案

陸軍部
期下士文官採用規則別冊ノ圖之ヲ定ム

右布達ニ付、

明治三十二年一月三十日

大政大臣
陸軍卿

別冊成案ノ圖

陸軍省ノ圖牒

議長

書記官

副議長

主本並本下

軍事部長官

議官甲

議官補

海軍部
陸軍部
農商務部
文部省
逓信省
司法省
大藏省
内務省
各省

内務部長官

議官乙

議官補

各省

別紙農商務省何徵發令第十五条第四項、件
聯合部會議ヲ以テ審査交渉議之レテ左、如シ

郵便取扱役、自宅ヲ以テ郵便事務所ニ在ル者ハ郵便

用供テ其宅ト私宅、部令ト區別シ難キモノ多キニ

居ルコト、其宅在部ヲ以テ徵發令第十五条第

四項ニ記ス郵便用建造物ト視テ徵發ヲ免除

せこつノ趣意一應可ナル如クト雖モ徵其爲令於
 テ却使用ノ建造物ヲ免除スルハ却使事務カヲ妨
 ケサラントノ旨意ニ止リ敢テ却使取扱役ニ特典ヲ与
 ノルモノ非サルヤ明矣同書中纏々事務カノ錯雜
 ヲ来サントノ苦慮ヲ陳ス下雖モ法律ノ元則ニ從ヒ
 錯雜ヲ生ヤサル適當ノ處置ヲ爲シ又其規準ヲ
 立ツルハ法律施行者ノ責ニシテ其錯雜ヲ防クノ
 法多クナルハキナリ殊ニ狹小ノ家屋ハ徵其爲令ノ
 表面ヨリ自然免除セラレニ至ルヘシト雖モ極店
 等ノ如キ大家屋ニ至ルマテ概シテ之ヲ免除スルハ徵
 令ニ於ルモノトス故ニ同ノ趣其當ヲ得テト認ム
 右ニ由リ坊令案左ノ通ニテ可然規上申出カ

坊令案

信ノ趣意以テ坊令案
 可然規上申出カ

大政官

議長

書記官

副議長

主事

軍事部長

海軍中務部長

甲子三三

別代陸軍省上呈の者
甲子三三
陸軍省
甲子三三

請上申、加

明治十六年一月十二日

軍事部長

主査

議官



海官補



海軍省上申徴募事務条例三第指、達廢セ之被
件

海官補

加
政
官

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

議長

書記官

副議長

主査長

軍事部長長官

議官長官

議官補海老津存あり

内務部長長官

議官長官

議官補古森公等外諸氏あり

御用掛箕野邦規

別紙海軍省上申徵奏事務條例ニ矛盾、御達廢セラレ度件聯合部會議ヲ以テ審査決議スルヲ左ノ如シ
官廳所轄及人民所有ノ西洋形船舶所轄替或ハ製造又ハ変更等同省ハ届出方ノ義ハ客年十二月第二十六号布達徵奏事務條例第二十五條ニ詳悉セルヲ以テ上申ノ如ク最前ノ御

達ハ廢セラレ可然義ト視認ス
右ニ由リ達案左ノ通ニテ可然義上申候也

達案

成按付箋ノ通

明治十六年二月十三日

海軍省へ通牒

明治十六年二月十三日

軍事部長

之五

海官

海官補



海軍省伺監視番外件

大政官
大政官

議長

書記官

副議長

主査長官

軍事部長

議官

議官補

併置
並置

内務部長

議官

議官補

法制部長

議官

議官補

甲子五九号

別紙海軍省伺監視處分ノ件聯合部會議ヲ以テ
審査決議スルヤ左ノ如シ

本件ヲ閱スルニ参照裁判事務取扱手續第七
七項ニ監視ノ執行ニ其地方警察署ニ付スヘ
シトノコニテ海軍部中ヨリ警察署ニ付シ又
海軍部中ニ於テ留置ノ定メ無之ニ付海軍治

罪法及治罪法附則制定迄尙出、如ク御裁
可相成可然但一項二項、普通刑法附則ニ倣
ヒ附屬、通修正スルヲ其當ヲ得ト視認ス
右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可然我上申候也

指令案

伺、趣聞届候條附屬ノ通修正可致事

明治十六年三月十日

明治十六年二月

軍事部長

主査 憲

議官

議官補 俊

○ ○ ○ ○ ○

海軍省伺水路局技術官加俸廢止ノ件

大正
政
官

議長 以下

副議長

軍事部長

議官

議官補 渡長政経目録

書記官

王查亮

別紙海軍省同水路局技術官加俸廢止、件部層
議以下審査変様之了存如

本同水路局技術官加俸表、以迄七年、同定
ル所ニテ其後、同五年、既別、横須賀造船所、
技術官加俸表、以迄、同五年、同定、之ヲ兵
器局技術官、通用、同、其加俸

ヲ殊とん中ハ彼ハ權衡ヲ失ヒ可取上ニ志合ナル
一書句論ナリ日改良ヲ加ヘテ造船所等ノ
加修表ヲ存シテ其一ヲ廢セトスルノ適有ナルニ
ナラス既ニ修表ヲ廢スル中ニ造船所ノ加修表ヲ海
軍技術官ノ加修表ト改稱シラシメテ海軍局員ニ
適用セヨトスルニ是亦不可不巳ノ事トス
右ニ由リ指令案左ノ通ニ可然敷上申付也

坊々集

伺、趣、以、仰、付、事

明治十五年三月十四日

海軍省大臣ノ通牒

明治十五年十一月廿四日

軍事部長

議定

議定補



陸軍省伺徴兵免役料、意納名簿分、件

大正
政
官

明治十六年一月十九日

編長

書記

副編長

主査

軍事部長

海軍部長

財務部長

海軍部長

甲子三二号

陸軍省同徴兵免役料息納者處分件聯合部
陸軍省同徴兵免役料息納者處分件聯合部
徴兵免役料息納者處分件聯合部

免役料息納者處分件本人失踪セルハ要ス
ルニ親族ノ形出スル者 若ク財産保有人ノ形出スル者

完せしむカ又ハ既ニ許可シテ是請願ヲ取消シ本人
得帰ルル中徴集スルキカノ取立ニ付テハ然レ
稟儀ニ詳述スルル如ク免役料急納スルニ於テハ
即チ徴兵相商ニ身カニ強ニ更ニ徴集セシムラ
適シカ、而シテ是高田中隊者トテテ、
中人現在シテ高田ニ在リテハ亦高田用スルニ之
依リ其知照ヲ取消シ中人得帰ルル中徴集スル
中テ其知照ニ依リ徴兵ニ先々徴集スルキカ
認規ス

右中隊ノ知照ノ旨ニ依リテ、
如政官ニ上申スル

高田中隊

同、趣旨ニ依リテ、免役料上納
取消シ徴兵相商スルキカノ旨、
徴集スルキカ
儀トシテ、

明治三十二年三月四日

大正十一年
陸軍省
軍務局
官

明治十六年二月廿七日
議事録
軍事部長官 議官 議官補
主査
副議長
議長
書記官

明治十六年二月廿七日

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長官 議官

議官補

甲第六一号

別紙海軍省同僚の孤兒扶助料一件部會議
以て審査次第を左に如し

審判員は、主として、幼少の軍人の遺子ニテ、
夫ノ子ニ非ス故ニ、幼少ニ扶助料ヲ付与セシムルハ
勿論ノ義ト認ム

右中坊左集友ノ通言可然也上申也

抄集

伺、通

明治十六年三月廿三日

明治十六年三月十九日

軍事部長也

三直 憲

海官名 海官補



陸軍省同海軍准卒徴集ノ件

大政官

明治十六年三月十日

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長 議官 議官補

別紙陸軍省伺海軍准卒徴集ノ件部會議ヲ以テ

審査決議スルノ如シ

本伺ニ按スルニ海軍兵員徴募規則ノ義ハ既

ニ海軍省ヨリ取調濟伺中ニ有之其決裁マテ

ハ准卒ノ者服役年期ノ定共未定ニ屬シ且

事 完

其澤ヲ以テ同省ヨリ今一々年激兵猶豫ノ上清
モ有之亦許可相成レ可然ト思量イタシ候ハ本
伺モ之ニ應当スル指令アリ可也ト認ム
右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可也我上申考也

指令按

伺ノ激海軍兵員激募規則詮議中ニ付今一々年
激集猶豫可致事

明治六年四月十日

明治六年三月十九日

軍事部長

三查 憲

海軍官長

海軍官補

海軍官長 海軍官補 海軍官長 海軍官補

海軍官長 海軍官補 海軍官長 海軍官補

海軍官長 海軍官補 海軍官長 海軍官補

大正
政
官

明治十六年三月二十日

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長 議官 補

別紙海軍省上請海軍准卒者後兵應募猶豫ノ

件部會議ノ以テ審査決議スルノ如シ

本件ニ上請書ニ陳スル如ク目下既ニ海軍兵令復

募規則ノ付中ニ有之其裁定ニ依リテハ准立ノ者

服役年數ヲ知シ陸軍會計卒子ノ如ク年限不

定ノ者ト目視スルカラスニ至ルモ難測且後

兵検査期屆既一切迄致シ居テハニ幸本年ノ如

後兵病豫ノ儀日新ニ成ニ然ト視テ

右ニ由リ指令奉テノ通ニテ然ル上申也

指令案

上請ノ趣申付候事

明治十六年四月十日

明治十六年三月六日

議長 杉方

書記官 山本

副議長 甲

主査 乙

軍事部長官 議官

議官補 乙

財務部長官 議官

議官補 乙

別紙海軍省同海軍技術官判任以下停業時間外増働料支給表中改正件聯合部會議決ヲ審査決議スルノ旨如シ

本按テ閣下ニ技術官加付テ准判任并、月給俸給者

參事 陸

ニ及リ不都合ナルヲ以テ准判任月給雇ノ項ヲ削
除シ日給ノ額十割ノ一ノ五割増ノ名額ヲ日給三十割ノ
二下改定兩点何レモ相違ノ改訂ヲ認ム
右ノ旨旨令案在道言可也此上申之也

梅屋重

何、翻、以、御、意、也

明治二十九年四月十三日

吉村松太郎 副議長

議長 山本 書記官 大島

副議長 田中 主査 高田

軍事部長 山口 議官補 秋月

十六年四月十三日大臣田中
別紙陸軍省上申參謀科將校ヲ以テ充ツヘキ職
務ハ參謀官ノ職務ト録スルノ件審査候處陸軍
武官官等表改正頒布ノ上ハ全省具申ノ通御聞
置相成可然ト存候依テ上申候也

大 陸 軍

明治十六年二月十三日

至查

軍事部長

議官

議官

海軍省伺在監人信與規則ノ件



本
政
官

大正

Vertical columns of text on the right page, including a date at the bottom: 明治二十六年二月十三日

明治二十六年二月十三日

議長

書記

副議長

主査長

軍事部長

議官

議友補

財務部長

議官

議友補

甲

別紙海軍省何海軍在監人給与規則件聯合部會議

海軍刑罰法制定上ノ陸ヲ在監人給与法ヲ

改正スルニ由ル義且本件条々不為義也

大正

大正
官

無之、何、通、德、許、お、承、可、然、と、認、

右、少、核、今、案、左、の、通、三、三、下、然、然、と、申、也

招、合、案

何、越、少、他、他、系、治、実、通、修、正、の、為、に

明治十六年四月十日

會計検査院の通牒

明治十六年三月

議長 友房

書記官 清中 大五

副議長 石

主査 馬屋 敏

司法部長 善

議官

議官補

廣瀬 岸 外

軍事部長 乙

議官

議官補

乙 務 乙 乙

別紙海軍省何少生計石山真家慶子ノ件聯合

部會議ヲ以テ審査決議スルノ在リ也

該日犯罪ニ對スル裁罰ハ斷案ノ通ニテ允當ナリ

トス

右、由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

大正官

指言事

伺通

明治十六年四月十四日

明治十五年四月四日

軍事部長

三查

海軍官務

海軍補

海軍省上申海軍服制改正ノ件



大正

明治十六年四月四日

議長有明

書記官

清浦上奏

副議長石

主査長改

軍事部長

代理

武官

武官補

真木下

神田

高田

別紙海軍省上申海軍服制改正ノ件部會議ヲ以テ
審査決議スルノ如左

海軍服制改正案ヲ閱スルニ現行ノ服制實際
ノ上其不便ヲ改良シ其虚飾ヲ省キ其不足ヲ
補フ、改正ニシテ至極其當ヲ得ルモノト認

定ス唯其將校准將校ノ常帽徽章ト可佐以上
ノ省章ニ菊章ヲ付セラレシコトヲ要求スル
ノ一點ハ頗ル特例ニ屬ス其請求ノ理由ハ現
行徽章ノ櫻花ハ必シモ貴重ノ物體ト確信ス
ルニ足ラス之ヲ將校ノ帽章ニ用フルハ不穩
當ナリ即チ英國ニ於テ其帽章及ハ省章ニ國
王ノ冕ヲ模寫シテ之ヲ附スルニ比準シ
天皇陛下ノ朕躬々々ノ國家ノ于城タル軍人ナ
ルヲ以テ最モ貴重ナル菊章ヲ特許セラレ之
ヲ帽上ニ頂ルハ此貴重ナル帽章ニ對シテモ

禮義廉耻ヲ重シ且海外航行等ノ日子多ク輦
下駐在ノ日少キ海軍ト人益待遇ノ優渥ナル
ニ感佩シ愛國心ヲ養成スヘキ故結果ヲ得ハ
キヲ希望スルニ外ナラサルナリ抑菊章ハ我
帝室ノ徽章ニシテ特典ヲ以テ勅賜セラルハ
モ、如シ就中維新以後ニ在リハ己巳八月
辛未六月ノ布告ヲ以テ由緒、有無ニ拘ハラ
ズ一切禁止セシレ其人體ニ刺スル例ニ至テ
ハ皇族ト雖モ十四歳一重裏菊、外亦聽許無
之只菊花大小使章ナリト雖モ必國家ハ大勲

勞アル者ニ非カレハ勅賜無之貴重ノモノニ
レテ猶中古天下擾乱ノ際大禮ノ行ハレサル
ヲ嘆キ其禮ヲ修スルヲ嘉シ毛利元就ニ菊相
ノ徽章ヲ賜リシ如キ同一ノ精神ナルヘシ其
他ニ神殿佛堂ニ古來ヨリ粧飾セルノ類又ニ
皇統或ニハ歷代ヲ掲クル書類等ニ亦聽許有
之レニ即例外ノ事ナルヘシ又海軍兵学校ノ
建物陸軍兵学校ニ陸軍生徒ノ卒業免状亦ニ
亦聽許有之ニニ陸軍人ノ徽章ニ近シト云凡
又軍人銘ノ衣服トニ自ラ其姓號ヲ異ニス

何トナレハ官舎ノ如キハ官ニ於テ何ク迄モ
保存シ得ヘク卒業免状等ハ猶官記位記勲記
等ニ其姓名ヲ書シ賜ルノ例ト同一ニシテ他
ニ濫用シ得ヘカラサルモノナルカ故ナリ且
又國ノ于域
天皇陛下ノ股肱タル主義ヨリ熟考スレハ陸
軍海軍ニ左右ノ腕ノ如ク一アリテ一ナル
可カラス然レテ陸軍ニ於テハ國旗ニ同シキ
日章ヲ用テ海軍ニ於テハ御旗ニ等シキ苗章
ヲ用ルニ至ラハ自ラ陸海軍ニ親疎厚薄有之

御待遇ノ姿ニ相到ルハ之又武官ニ終身官ナ
 リト云々疾病アルハ免官トナリ又本人死後
 ハ唱章ノ菊章ヲ何レニ保存スヘキヤ最貴重
 ノ徽章ヲ之ヲ保存シ得可カラズヤ云々
 云々ハ必定ニシテ再ヒ幸未六月ノ如キ布告
 ヲ要スルニ云々前条ニ因テ思考スルニ菊
 章ハ聽許セラシメ陸軍ト同様日章ニ改正候
 方至當ト確認ス
 右ニ由リ指令梅左ノ通ニテ可然致上申久也

傍全案

上申ノ趣菊章ノ義ハ雖及詮議ヲ取諸事
 ニ可任也事

參 雜 院

同治六年三月廿日

軍事家長也

主查



議友為

議友補



陸軍省上申陸軍武官亦表政正件

本
政
書

陸軍省
武官
亦表
政正
件

大正輔官

明治十六年三月

議長

書記官

副議長

主査高田

軍事部長

議官

議友補

社
員

別紙陸軍省上申陸軍武官等表改正件部會

議^ヲ以^テ審査交^ハ海^ノ右^ノ如^シ

本件^ヲ按^ズニ^ニ從來設^カレ^タ參謀科^ヲ廢^セト^ス其

理由^ニ上申書^ニ云^フカ如^シ要^スニ^ニ他兵科^ノ將校^ヲ

差^良成^シ參謀^ノ學術^ヲ有^ク者^ヲ以^テ其職^務ニ

大正

老^老とトシ、存^存且^且之^之外國^{外國}、強^強之^之獨^獨并^并二國
、如^如キモ、近^近時^時參^參謀^謀科^科ヲ特^特設^設セ^ステ他^他兵^兵科^科ノ
將^將校^校ス^ル其^其職^職務^務ヲ為^為サ^スル^ル之^之依^依テ^テ兵^兵科^科
ヲ廢^廢止^止ス^ルモ、軍^軍務^務、妨^妨ケ^ルナ^キト^ス其^其他^他會^會計^計
軍^軍運^運進^進送^送等^等、本^本軍^軍中^中、亦^亦別^別在^在、廉^廉、改^改申^申キ
元^元親^親之^之、ヒテ、是^是亦^亦其^其中^中、有^有、應^應許^許共^共成^成、其
條^條、或^或唯^唯一^一、本^本軍^軍中^中、有^有、其^其、條^條、記^記載^載、亦^亦有^有、
ハ、條^條、年^年、表^表、其^其、中^中、有^有、其^其、條^條、之^之前^前
唯^唯一^一、條^條、從^從、軍^軍、陸^陸、軍^軍、武^武、官^官、ノ、名^名、レ、從^從、陸^陸、軍^軍、ノ
字^字、ヲ、用^用、ヒ、テ、其^其、日^日、先^先、般^般、本^本、條^條、改^改、正^正、セ^レ、
ラ、在^在、職^職、者^者、兵^兵、科^科、官^官、ノ、上^上、ニ、職^職、名^名、ヲ、記^記、シ、其^其、職^職
者^者、モ、兵^兵、科^科、ノ、名^名、ヲ、稱^稱、ス^ル、ト^ス、其^其、中^中、有^有、^海、
軍^軍、武^武、官^官、ノ、名^名、ヲ、用^用、ヒ、テ、其^其、中^中、有^有、
ニ、テ、^陸、^海、^軍、^武、^官、^ノ、^名、^ヲ、^用、^ヒ、^テ、^其、^中、^有、[、]、^陸、^軍、[、]、^二、^字、^ヲ、^用
今^今、將^將、官^官、并^并、其^其、武^武、官^官、ノ、條^條、ノ、外^外、陸^陸、軍^軍、ノ、二^二、字^字、ヲ、用^用
其^其、單^單、表^表、而^而、其^其、武^武、官^官、ノ、稱^稱、シ、特^特、其^其、武^武、官^官、ノ、名^名、
以^以、此^此、^陸、^軍、^省
此^此、^陸、^軍、^省

在職者兵科官ノ上ニ職名ヲ記シ其職者モ兵科ノ名ヲ稱スルト其中、海軍武官ノ名ヲ用ヒテ其中心有陸軍ノ名ヲ用ニテ敢テ他ト混同セサルヲ自レ陸軍ト今將官并其武官ノ條ノ外陸軍ノ二字ヲ用其單、表面、其武官ノ稱シ特其武官ノ名以、此、此、
此、
此、

陸軍省

陸軍武官、亦表別表、向以可、在兵官
於此其子、明治二十五年五月

陸軍省

今般陸軍武官、表以之、自之、亦、
將友并、初友、外、後、陸軍、之、字、
中、會、針、軍、區、馬、區、軍、樂、於、初、海、友、
防、正、保、之、者、從、友、其、級、準、之、者、自、操、
兵、部、之、自、海、友、者、於、之、

各省院應社

陸軍武官、亦表別表、向以可、在兵官

世其子

明治二十五年五月

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長

議官

議官補

也
別紙陸軍省逕達行政事務報告書上申一紙

軍事院

政官

議長 岩

副議長 岩

司法部長 鶴田

軍務部長 代理 田中

議官 中村

議官 甲

議友 補 与野 彦

議友 補 渡 長 改 津 林 真 高 田 下

書記官 法部 大 下

主査 廣 成

別紙陸軍省伺取中村三之助犯罪處分件聯合
部存照ヲ以テ審査決議スルノ如シ

該犯「殺罪」併「殺」中其重ナルモノハ「既」
中途ニ於テ行人ヲ殺害シ其金貨ヲ奪取シ
ル科ニ依リ「強盗」刑法中ニ有リテ「強盗」
人ヲ殺シ「強盗」トシテ「強盗」ノ「強盗」
刑ノ「強盗」トシテ「強盗」トシテ「強盗」
刑ノ「強盗」トシテ「強盗」トシテ「強盗」

右三條、坊屋案、右ノ通ニテ可然、或上申、然也

何ノ通

明治十二年五月一日

明治十六年五月十日

軍事部長



之查



湯官



湯官補



陸軍省同後、海軍省、艦員ヲ多、海軍省ニ轉任ノ件

大政官

明治十六年五月十四日

議長 有田

書記 官 尾崎

副議長

主査 有田

軍事部長 光輝 諸官 光輝 諸官 補長 改 甚 有 存 在 不

別紙陸軍省伺後備軍艇員ヲ常備艇員へ轉任ノ
件部會議ヲ以テ審査決議スルノ左ノ如ク
本伺「來十七年ヨリ漸々常備隊數增加スハ
キノ需從テ許多ノ士官ヲ要スルト雖モ之ヲ
達成セシムルノ途無之ニ付後備軍艇員ノ内

少尉試補及曹長ニテ士官適任證書ヲ有スル者ニシテ其志願者ヲ戸山学校ハ入校セシメ卒業ノ後少尉試補、曹長、少尉試補ニ任用セシトスルノ趣意ニテ右ノ上申ニ云ハルカ如ク後備軍肥員ヲ常備肥員ニ轉スル義ハ後備軍肥員條例中明文無之ト雖モ他ニ補填ノ途無之且其肥員ノ志願者ヲ入校セシムル事ハ此度限リ特別ニ承聽許相成可然御卜認視ス

右ニ由リ持戻案左ノ通ニテ了然御申上申也

指令案

伺、趣此度限リ御届外事

明治十六年五月廿六日

海軍省
大臣
官

明治十六年四月廿三日

軍事部長



三木 長武

議官



海軍省



海軍省何外國航海中患者信其規則ノ件

勘定
珠
常

議長

書記官

副議長

主査 小森澤

軍事部長甲 議官甲

議官補

田口 豊稔 木下 芳田

財務部長乙 議官乙

議官補

男五 十池

別紙海軍省伺外國航海中患者並護送人給與規則、件聯合部會議ヲ以テ審査決議スルヲ左ノ如ク

本伺、要点ハ現行規則ニ卸船乗組ノ定ノ、

ト視認ス
ト官船乗組ノ定ナキカ故ニ該条ヲ増
加スルト其他制限ヲ定ムル等
兩三ノ改正ヲ求ムルニアリ皆是至當ノ改正

右ニ由リ指令案方ノ通ニテ可然者上申候也
指令案

同ノ趣御届候條有筈ノ通修正可致事

明治十六年五月三十日

大藏省會計検査院ノ通牒

明治十六年五月十九日

軍事部長 代

海軍省

海軍省

長官

官

官

陸軍省同派員等事務協例第八号立案權人ノ件

大正
政
官

明治十六年五月

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長之 議官

議官補長 議官

内務部長 議官

議官補

別紙陸軍省の議事録多例外以余之原證人
ハ行聯合初層議事以テ審議以議元ト存如之
本件ノ如キ場合ニ適因以テハ長ヲシテ他ノ初層
ト認メテ之ヲ撰定セシムルヲ以テト認視ス

大正
政
官

右ノ中ノ坊屋敷等ノ通シテ之ノ悉ク申上ル也

坊屋敷

何通

此等ノ事一ツノル也

由給御事両方、通牒

参照

激發事務修例

其ノ象 激發物件其激發ヲ得セシメタル也

現在スルニ其所有者又ニ其支配人不在ナル

トキハ戸長及ヒ証人二人其住所内ニ住スル

ヨリ戸長ノ指定スルニ立會、上其物件ヲ調査

シ堪給セシム可也

大正
政
官

滋養事務條例
其
會
人
之

其
白

滋養事務條例 其所方者又其其他人不在之時ハ
滋養事務條例 中ノ事ハ依リ供給セシムルハ
キ義 方ニ其處其町内ニ立會所人下ニ
ニ親族又ハ其主又ハ同物件 生業有無
之乎又ハ其他人之所人ノ數ハ不足ニ
此布ニ他ノ村ニシテ其長ニ權定
め給フ然ルモ其親族ノ所ニシテ急
何台ニ其所人オモル及シテ其也
昭和十一年 五月一日

陸軍卿 大山 巖

甲
九

大正十一年四月九日

明治十一年四月九日

議長

書記官

副議長

主査馬也

司法部長為議長

議官補本所本

軍事部長為議官

議官補長以真馬也本

甲第二二三号

別紙陸軍卿伺陸軍會計軍吏副安東義則犯案
處分件聯合部會議ヲ以テ決議スルノ如ク
安東義則犯案ノ對シテ裁判ノ斷據ヲ通ラ以テ
可トス

右ニ由リ指令案左ノ通ニ可然哉上申也

指令案

伺、通

明治十六年七月三日

議長

書記官

副議長

主査 三田

内務部長 山

議官 山

議官補 山

御用掛 水野

軍事部長

議官

議官補

別紙海軍省伺叙熟條例件聯合部會議ヲ以テ審査法擬之
ト左ノ如シ

案ニ陸軍兵國兵ノ戦路ニ於テ究ムヘカラズニシテ自ラ他ノ

職務・従事元ト口ノモノニテ故ニ海軍卒元者ハ本ノ志ヲ
ニ出テ陸軍兵如キ激勇服役他律アルモノハ自ラ異ナリト雖モ
均シク之ニ陸海ノ兵ニ海軍陸軍兵ニ向テ兵卒ノ條例限ニテ
カレモノトス

陸海軍下士初叙滿十年以上ニテ文官判任滿二十年以上例ニ
テラス夫レ海軍准士官中掌砲水兵本ノ概劇工長官ノ如キハ下士ノ
列ニテアラシテ判任ノ中ニ在ルニテ同ク二十三年ノ例ニテハカレト至
テ官ト下士ノ均シク文官ニテテ去カスナリト判テ下士ノ例
依ルニテ下士ノ如キ昇等ノ故ニテ叙勲可受ルニテ十二年ノ
後ニ在ルニテヤ是レ陸海軍下士初叙滿十年以上トナルニ

依ルヘシ

附別方四款ニ等外ヨリ判任トナリ又判任ヨリ差任トナリ又差任ヨ
リ勅任トナル者トアリテ等外ヨリ判任ヲ經テ奏任トナリ又判任
ヨリ奏任ヲ經テ勅任トナル者ハ例ナシト雖モ若キ前任ノ年數ヲ
其後任ノ年數ト直算スルコト見レシ等外ヨリ判任ヲ經テ奏
任トナルモノ判任ノ年數別々奏任ノ年數ト直算スルコトス
准判任亦用掛ヨリ准奏任亦用掛ヲ經テ本官及テ奏任トナル者ハ
譬ハ准判任ノ以三年トルキハ其後支即テ判任ノ三年可折減シ
テ一年トスルニ奏任ノ三年ニテハ折減ス

右ニテ折減是レ大旨ニテ可然テ上申候也

指在案

何、越友通可、口得事

第一下士、日ヨリ起算スル

亦二、掌記本兵工城、工長並ニ掌記本兵工城、

工長及掌記本兵工城、

第三、奉任、ノ叶、而、奉任、字、取、到、任、ハ、奉任、字、取、外、

判、任、字、取、ニ、テ、奉任、外、奉任、歴任、ノ、到、任、字、取、即、テ

現、奉任、外、下、テ、通算、ス、

亦四、現、奉、採、テ、テ、申、掛、本、任、ノ、方、一、折、減

ス、以、奉、外、ノ、任、ト、シ、算、入、セ、ス

明治十六年五月廿一日

議長

書記官

副議長

主査中山

内務部長、長議長、長議官補、長股、長多、長少

軍事部長、長議官、長議官補、長長、長長、長長

財務部長、長議官、長議官補

別紙大藏省伺受恩由者印紙賣捌、件聯合部會議、

於、審査決議スル、左、如シ

伺、趣、恩、給、令、依、り、恩、給、ヲ、受、ル、者、印、紙、賣、捌、ヲ

新可セラル、手續ナリト呈恩給令發布以前陸
 軍々人ニシテ他ノ規則ニ依リ恩典ヲ受ケル者ト十五年
 滿蒙等ノ邊地巡查省守佐例ヲ實施セサル府
 縣ニシテ八年九月三日迄ニ依リ陸即科ヲ受ケル者
 上ノ西件ハ印紙賣捌手續ナラズ、明文外、付
 該手續ニ據ルハカラヤンモノニ似シキ等ニシテ恩給ヲ
 受ケル者トハ時ニ之ヲ許可スルモノヤトアリ
 按テ恩給令發布外他ノ規則ニ依リ恩典ヲ受
 ケル者トハ其後八年九月三日迄ニ依リ恩典ヲ受
 ケル者トシテ果シテ然レハ恩給令ハ其後四十

八年達陸軍省令依柳林他五ノ部七ノ高野繁栄米
 料并ニ其後陸林ノ規則ヲ相續シタルモノニシテ
 印紙賣捌自給ニ以テ十年ニ恩給令ニ依リ
 受恩セシモノト異ナルモノトハ八年九月三日迄ハ
 巡查省守佐例ト寸毫ノ差ナラズテ全府
 縣ニ於テ巡查省守佐例ニ據リ施行セハ
 勿論ノ事ニシテ強クセシ計數ニ於テハ八年
 九月三日迄ニ據リ取扱カキ其恩給ニ於テハ
 同様ナリ若シ之ヲ異ナルモノトセハ彼レニ厚クシ
 テ此レニ薄クスルハ嫌アリ如トナシ軍人

明治十六年六月 日

議長有朋

書記官清浦

副議長

主査木下

軍事部長山田 議官

議官補

別紙陸軍省伺朝鮮事変ノ際死歿セシ堀木工兵
中尉等遺族扶助料ノ件聯合部會議ヲ以テ審査
決議スルノ左ノ如シ

木件陸軍中尉堀木禮造ノ朝鮮ニ於テ死歿セ
シハ公務上ノ死没タルハ勿論タリト金氏奏

遺族扶助に因り朝鮮政府に於て補助料の由り
致す巨額を金匱に支給せしむるに於て特設の補助料下賜相
成申上候朝鮮に恩給令頒布に遺族賑恤に恩賜に其振
賑に務む所は陸軍卿處に遺族恩給令の補助料下
賜に相成候に可然と思考す

右ニ由り指令案左ノ通ニテ可然我上申矣也

指令按

伺ノ趣特別ノ扶助料下賜相成候ニ付恩給令
ノ扶助料ハ下賜不相成儀ト可相心得事

明治十六年一月

主事 高田

軍事部長 議定 議定

陸軍省同花界拘置中病死ノ者為榮料の賜
付

明治十六年六月一日

議官補 長谷川善孝

書記官 清浦 益田

主査 高田

副議長

議長 有朋

軍事部長之 議官

別紙陸軍省伺故殺ニ係ル犯罪有之拘留中病死ノ者祭染料下賜ノ件部會議ヲ以テ審査決議スルノ左ノ如シ

故陸軍兵卒緩部彈九郎ハ祭染料下賜リ兵燹承人故殺犯ニ係リ拘留中病死セシヲ以テ授

明治十六年六月一日

議官補 長谷川善孝

書記官 清浦 益田

主査 高田

副議長

議長 有朋

軍事部長之 議官

別紙陸軍省伺故殺ニ係ル犯罪有之拘留中病死ノ者祭染料下賜ノ件部會議ヲ以テ審査決議スルノ左ノ如シ

故陸軍兵卒緩部彈九郎ハ祭染料下賜リ兵燹承人故殺犯ニ係リ拘留中病死セシヲ以テ授

與如何可取計哉ト云フニアリ之ヲ案スルニ
 本人ハ西南役ノ功勞ニ依リ金貲賜与可相成
 之處死去ニ付特旨ヲ以テ祭料下賜リ候義
 ニテ其死亡ハ犯罪拘留中ニ在リト雖モ裁判
 未決中即テ公訴消滅セシ者ニ付最前御達之
 通其儘遺族ハ下賜可相成モノト認定ス
 右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申矣也

明治十六年七月十七日

指令按

同ノ趣遺族ハ授与矣義ト可心得事

明治十六年七月七日

軍事部長札

之查



湯

官



後官補



陸軍省同輜重兵科 士官補填ノ件

大 文 官

明治十六年七月十日

議長

書記官

副議長

主査 三白

軍事部長之

議官ヨリ 議官補 三白

別紙陸軍省付輜重兵科士官補填ノ件部會議ニ以テ
ヲ審査決議スルノ如シ

輜重兵士官ノ缺員ニ騎兵士官ヨリ補充スルノ例ナリ
ト雖モ其補缺ヲ騎兵科ノニ限ルニ極當ナラサルニ
因リ憲兵士官ノ例ニ準據シ各兵科士官ヨリ

陸軍省
議院

担任スルヲ適當ナリト認視ス

右ニ由リ指令按テノ通ニテ可然者上申便也

指令按

白、趣聞名候事

明治十六年七月廿八日

明治十六年七月十二日

議長

書記官

副議長

主査ハ池

財務部長ハ議官ハ議官補男光

軍事部長ハ議官ハ議官補不

別紙陸軍省ハ在海外各國公使館附テ陸軍將
校年俸ハ件聯右部層後ニ審査決議ス
ル在如シ

事件ニ對シテ原無之ヲ可裁可ヤリ可然

卜視總又

右、中、指左案左、通言可然、裁上申也

抄合案

何、知開石、事

明治十六年八月三日

右、指左案左、通言可然、裁上申也

明治十六年六月

軍事部長

議官



議官補



内務省上申恩給受領者罪、犯公権剝奪、者登
録寫帖収奪、件

明治十六年七月十四日

議長

書記官

副議長

主査 高田

軍事部長 田中

議官補 田中

司法部長 大谷 議官 大谷 議官補 大谷

別紙由務者上申恩給受領者罪ヲ犯シ公権剝奪ノ者登
録寫牒取奪ノ件聯合部會議ニ以テ審査決議スルヲ尤ノ如シ
上申ノ趣ニ至當ノ事ニ付上申ノ通御用旨相成可然
儀ト認定ス

右由り指令學並司法省へ違學在ノ通テ可然亦上申集也

指令學

上申ノ趣聞届司法省へ在^{別條}通相違復事

明治十一年八月三十一日
司法省へ違學

陸軍思給言ニ依リ思給ヲ有スル者及扶助料ヲ受ル事婦
孤兒罪ヲ犯シ公推刺奪ノ處分ヲ為ス時、其裁判宣告ノ際
思給登錄簿ヲ收受シ宣告文ノ写相送其者。ノ由務
省へ文付テ致此旨相違復事

陸軍省通牒

陸軍省通牒

明治十六年三月廿三日

軍事部長

之丞



海官

海官補



海官補用急納者是等件
— 奉告也

新軍官

海軍省
海官補用急納者是等件
— 奉告也

海官補用急納者是等件
— 奉告也

明治十六年三月廿六日

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長

議官

議官補

内務部長

議官

議官補

甲第三九号

徴發費用急納者處分件聯右部庫係ヲ以テ審査
決議スル左如シ

徴發人ノ第三十條ニ據ルニ徴發物件ノ輸送費ヲ

負擔スルニ各州縣正ノ義務ニシテ其義務ヲ盡ス以上

大正

ハ法律其支辨ノ方法ヲ問ハサルヲ以テ各徴区長ニ於テ
 曰令其ハ条及ヒ曰事務条例カ高条ニ依リ便宜ニ之
 カ支弁ヲ豫定シ各區若異ノ方法ヲ以テ之カ負擔ヲ為
 スハヒト多日若シ之ヲ其區中一般ノ戸數若ハ人口ニ
 賦課シタル均后ニ於テハ其課出ヲ拒ミ又ハ急納スル者
 ナレト云フ可ラサレハ豫メ其處分ニ苦ムララ豫メ既別
 紙参照ノ如ク其説明ヲ請ヒタル縣令アリ而レ右
 輸送費ニ固ヨリ地方税ノ外ニテ其賦課徴收ノ概子
 支出後ノ實費ヲ填補スルニ係ルヌノフレハ其急納者
 ハ賣立ニ明以十年カ七十九号ノ布告ニ據リ處分ヤシ

ハ可キニ非サレノミナラス又布告先ノミニ據リ處分シテ
 ラサル事アリ即公賣代屋ノ不足スル均后是レナリ
 カ、特、別ル布告ハ以テ其處分法ヲ定メサレ可ラス
 今其處分ノ方法ヲ考フルニ先ツ上布告旨納者、
 例、後ハ明治十年カ七十九号ノ布告ニ準據セシテ而
 シテ公賣ノ際財產ノ所望人ナリ時ハ之ヲ法区ニ没
 收シテ適宜處分セシメ其估價ニ不足ナル時又ハ均
 後收ヨリ不足ヲ生ズル時ハ之ヲ法徴裁区ノ損失ニ
 歸シテ之ヲ填補セシメ其填補ノ均ノ再々之ヲ區中一
 般ニ賦課スル均后、急納者ハ亦前額全一ノ

番方、付し畢、言費、充實、至り止、可キ事ト
元ノ外莫カル可ト、祝徳ス

右ノ中、布告集、左ノ通、言、可然、或上申、也

布告集

激發令、依、後激發、已、百、撥、可キ事、用、日、初
知事、以、分、所、長、者、と、方、長、キ、事、中、の、賦、課、也、
ル、^置、^甲、^ノ、^事、^理、^本、^推、^ス、^事、^急、^納、^也、^者、^以、^以、^況
十年、上、カ、七、カ、^ノ、^布、^告、^集、^に、^依、^り、^テ、^事、^急、^ナ、^リ、^得、^但
財産、公、賣、際、所、望、人、^ノ、^事、^時、^ハ、^之、^ヲ、^甚、^シ、^シ、^没、^收、^シ
不足、金、^ハ、^之、^ヲ、^没、^收、^シ、^後、^失、^ニ、^帰、^ス、^リ、^ト

右ノ事、勅旨、布告、依、事

吉野、大、臣
由、務、卿

大、臣、傳、言、院

明治十六年五月廿一日

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長

之議官

議官補

之議官

内務部長

之議官

議官補

之議官

別紙之老院上奏後發令。依り賅譯之タル費用

總納者發分方、件審査先處不都合、廉無之ニ

付同院修正、直成布告相成り然ト存候也如レ上

申候也

參事院

布告案

元老院修正、通

内務省建署

明治十六年七月 日

議長

書記官

副議長

主査 馬場

司法部長、右議官、右議官補、
軍事部長、議官、議官補、
議官、議官補、
議官、議官補、

別紙陸軍省河生兵日下典三郎犯罪案、併聯
官部會議ヲ以テ審査決議スルニ付、
本犯ハ叙責取等ノ裁罪俱没一ノ重十叙責取、
依リ死刑ニ斷案シタルモノナリ、
本犯ハ至當ノ處分ト視認

依リ死刑ニ斷案シタルモノナリ、
本犯ハ至當ノ處分ト視認

參事院

參事 陽

ス

本ニ由リ指令案九ノ通ニテ可然或上申及也

指令案

河ノ通

明治十六年八月九日

明治十六年 七月九日

軍事部長

之直



海官

海官補



海軍省上申 官名船舶名報告ノ件

大 史

明治十六年七月 日

議長

書記官

副議長

主査 高田

軍事部長出

議官

議官補

田口 木下

内務部長福

議官

議官補

黒田 久保田 徳

別紙海軍省上申官有船舶表報告ノ件 聯合
部會議ヲ以テ審査決議スルノ左ノ如シ

海軍省ニ於テ官有船舶ノ種類員数等ヲ調査スル
ハ緊要ナリト雖モ徴費ノ為ニ要スル民有ノ船舶ト同

事務院

視シ徵發事務條例ニ照準スルハ穩當ナラサルニ
依リ別ニ其船舶表ヲ示シ之レニ照シ報告セシムルヲ
可トス其連接中修正シタルハ都テ此理由ニ基ク
右ニ由リ連接左ノ通ニテ可然哉上申候也

連接

修正ノ通

明治十六年六月

海軍省ノ通牒

明治十六年六月

軍事部長

自在 憲

海軍省

海官補 好



海軍省上申 海軍中へ教官ヲ被置本件

大文

明治十六年六月

議長 有朋

書記官

久保田

副議長

主査 愈

軍事部長 為 議官

議官補 滋

学林 高田 才下

別紙海軍省上申海軍省中へ教官ヲ被置度件部
會議ヲ以テ審査決議スルノ如左

本件海軍學校ニ學問藝達實業練磨ノ武官ヲ
得テ其教官ト為サントスルハ別紙参照上申
書ノ如ク明治十二年該校教員俸給等伺定ノ

事務

節ヨリ希望スル所ナレト如何セン當時ニ在
リテハ創業日尚ホ淺ク其人ニ乏キカ故ニ不
得已假ニ教授及ニ教授補ノ職名ヲ設ケ仕
ノ文官等ヲ以テ之ニ充テ置キタルモ今日ニ
至リテハ同校其他教育ノ功績ニ由リ武官中
其人ニ豊ナルヲ以テ目下其制ヲ改メ官ヲ設
ケテ適當ノ碩學ヲ選任シ益々善良ノ將校ヲ
養育製成スルノ機関ト為サントスルモノナ
リ按スルニ凡ソ官員其勤務ヲ好悪スルハ俸

合、厚薄ニ拘ハラサル者ナリト云々其之ヲ
使用スル者ヨリ論スル時ハ齊ク同善官吏ノ

勤務ニシテ報酬ニ厚薄アルハ公平ヲ執ルト
謂フ可ラス况ヤ此上申書ニモ云ヘル如ク同
ク海軍武官ノ勤務ニシテ單ニ海陸ノ別アル
カ為ソニ高尚至難ノ教導事務ニ服スル者却
テ他ノ通常業務者ニ劣ルカ如キハ最モ權衡
ヲ得サルノ本甚キモノト謂フ可シ且學問實
業ノ發達スル者必シモ武官ノ職務ニ適合ス
ルトセズ却テ之ニ適合セサル者其多キニ居
ルカ故ニ今特ニ教授官ヲ置ク時ハ併テ其軍

ヲ專任スルノ便ヲ得ルヲ亦上申書ニ陳スル
如クナレハ旁々上申ノ旨趣ハ許可スルヲ至
當ト視定ス只其教官ノ設置ヲ兵學校ニ限リ
ヲ械園學校ヲ問ハス又教官中ニ到任ヲ置ク
カ如キハ太々其當ヲ失ヒ不都合勘カラサレ
ハ今未書ノ如ク別表ヲ修正シテ四等ヨリ九
等マテ總テ奏任ト為シ且單ニ海軍教官ト称
レテ之ヲ機關學校ニ通用シ而テ大中小教授
ノ名称ハ單ニ海軍ノ二字ヲ冠スルニハ妥當
ナル教官ノ名称ト為スヲ適當ト認ム

右ニ由リ連案左ノ通ニテ可然哉上申候也

連案

第三十三号

官省院廳府縣

海軍省中教官ヲ置キ其名称等級俸給別表ノ
通相定候條此旨相達候事

明治十六年八月二十四日

別表修正ノ通

海軍省

其省中教官ヲ置キ其名称等級俸給別表ノ通
相定候條此旨相達候事

明治十九年八月廿四日

別表前ニ令シ

明治十九年八月二日

軍事部長

之查 憲

海官

海官補



陸軍省上申 経略修例中砲工兵並獲ヲ修補シ海兵省上病
本ヲ除ク事ニ付

明治十六年八月 日

議長

書記官

副議長

主査志

軍事部長之職官

職官補

さ田

別紙陸軍省上申結婚条例中砲工兵監護ヲ増加シ鐵
兵看病卒ヲ相済メ度ノ件部會議ニ以テ審査決議スル
コト左ノ如シ

本件改正ヲ據スルニ砲兵監護工兵監護並ニ職員非
隊分ニ非サルカ故ニ之ヲ會計軍需部等ノ下ニ以テ

軍事院

この至当又者病卒、故兵令に信り徴集し、これより宜
り他、兵卒ト全一規則ヲ履マシムルキハ勿論ナリ、要
スルニ高雷ノ増損トス

右に由り達案ヲ一通ニテリ然亦上申也

達案

呈按汝夏ノ通

明治二十年八月廿四日

議長

書記官

副議長

主査 渡

軍事部長 議官 議官補

財務部長 茂海 海軍部員

別紙陸軍部給令 海軍部給部令 併し以答

本所係多ク在り

陸軍部給令 海軍部給令 併し以答
海軍部給令 併し以答
ス

軍事院

五、中、延、多、去、回、三、日、凡、中、一、日

延、多、去

成、多、回

明治十六年八月

軍事部長代文龍

主査留

海官裁補

留

海軍省上申海軍下士以下懲罰則中改正
本件

本件

大正

議

海軍省上申海軍下士以下懲罰則中改正

懲罰則ノ俄實際差支之庫有之ニ付改正教度

件聯合部會議ヲ以テ審査決議スルノ左ノ如ク

別紙海軍省上申海軍下士以下懲罰則中改正ノ

議長

書記官

副議長

主査高田

軍事部長中塚之類議官之類議官補渡 中塚

法制部長水本議官 議官補水本

懲罰則ノ俄實際差支之庫有之ニ付改正教度
件聯合部會議ヲ以テ審査決議スルノ左ノ如ク
別紙海軍省上申海軍下士以下懲罰則中改正ノ

海軍省

その等ノ事ニ付上申ノ通政ニ付成候事可然
モトトス

右ニ申上候事案存ノ通ニテ可然候事上申ノ由

違案

海軍省

海軍下士以下懲罰則左ノ通改正候條此旨相
違候事

年月日

第二條一項 艦船營長ノ上ニ海軍各所

管ノ長シル將校准將校共ニノ十六字

ヲ加フ

第四條二項以下ヲ左ノ如ク改ム

禁銅ハ艦船營内ニ在テハ其檻牢又ハ

六

一室内若クハ帆布圍内ニ於テ之ヲ行
フ但時宜ニ依リ海軍監獄ノ禁錮場ニ
錮スルコトヲ得

艦船營外ニ在テハ海軍監獄ノ禁錮場
ニ於テ之ヲ行フ其禁錮場ニ於テスル
者ノ取扱ハ総テ獄則ニ從フ

第五條 禁錮ノ上ニ艦船營内ニ在テハ
ノ八字ヲ加ヘ過クル時ハノ下艦船營
内ノ五字ヲ其ニ改ム

第六條 禁錮ノ上ニ艦船營内ノ五字ヲ

加フ

第七條 禁錮ノ上ニ艦船營内ノ五字ヲ
加フ

第八條 禁錮限内ハノ下艦船營長若ク
ハ長官ノ九字ヲ其所管ノ長タル將校
准將校若クハ艦船管長ノ十九字ニ改

第十二條二項 謹慎ハ艦船營ノ下若ク
ハ屯集所ノ六字ヲ屯集所或ハ自宅若
クハ官廳ノ十二字ニ改メ艦船營ノ下

大正 官

〔内若クハ屯集所〕ノ七字ヲ〔屯集所若ク

ハ官廨〕ノ八字ニ改ム

第十九條 記載ニタル外ノ下艦艇營ノ

上ニ〔海軍所管〕ノ規則或ハノ九字ヲ加

フ

以テ之ヲ改メ

明治三十八年八月 日

議長

書記官

副議長

主査山崎

法制部長兼議長 井上 議官補 木村

中軍事務長 兼 議官補 長谷川 三田

別紙陸軍省何罪犯取扱手續書式取寄付儀轉付
部事務係ヲ審査決定スルナリトシ

右記各々、如キ都府、廳ニ無クハ陸軍省
審査官ニ付シテ、以テ之ヲ改メ、

陸軍省 院

モノニアラサルモ不幸ニシテ不治ノ惡疾、罹リテ
シ病盟ニ死ヲ待ツノ外之レナキ情態、憫諒スベキ
ナラス、到底改過遷善ノ望、知ラズ、顯ハキ由シナキモノ
ニ甘寧口出格ノ譯ヲ以テ放免シ然ルヘキモノト認定
ス

右ニ由リ指令案九ノ通、テ然考上申復也
指令案

輕懲没六年四寸村竹二郎特典ヲ以テ放免復事

明治十年十月四日

明治十六年九月十一日

議長

書記官

副議長

主査 黒田

内務部長 大森

議官 大森

議官補 大森

中山

御用掛 小笠

軍事部長 大森

議官 大森

議官補 大森

議官補 大森

大森

別紙内務省伺徴癸費怠納額先取特權順序ノ件
聯合部會議ニ於テ審査決議スルヲ左ノ如シ
伺ノ趣ヲ按スルニ本年第三十一号ヲ以テ徴

發費ノ怠納者ニ十年第七十九号布告ニ依リ
處分スル旨布告相成候處該費怠納者處分
ノ際先取特權ノ順序ハ已ニ伺定ノタル土木
費ノ次ト心得可然哉ト云フニアリ右順序ハ
伺ノ通ニテ可然ト認定ス
右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可然哉上申候也
指令按

伺ノ通

明治十六年十月五日

日誌者通牒的文

十四年六月十七日由務省付

客年第五十号并本年第二十四号ヲ以テ備荒儲蓄金
及土木費怠納者処分ノ儀ニ付公布ノ次第有之候処右ノ
國稅其他ノ諸稅子齊トシ不納者公賣方処分及候處
十年第七十九号ノ公布中第四條ニヨリ第一公賣ノ關ニ
費用第二國稅第三地方稅ノ順序ヲ引去候上ノ第四備荒
儲蓄金第五土木費ト引去ノ順序ヲ定メ候方ト相心得
可然カ且又右土木費不納者處分ノ義ハ十一年第三十二号
公達郡區長ノ務條件第一項ニ準リ郡區長ニ於テ事及
可致義ト云ハ得可然哉此為相向儀差掛ノ由生ノ向有
之儀向至急ニ指揮取度候也
十四年八月十九日指令

白通

第三十一号 十二年八月廿一日

徵發令に依り負擔スルキ費用ノ急納者ハ明治十年
財第七十九号布告に依り処分ス可シ但財産公賣
ノ際買受望ムキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルト
キハ其區ノ損失ニ歸ス
右費用ニ關スル処分ニ就キ不能アル者ハ明治十五年
財第二十二号布告に依り

徵發費急納額先取特權順序之義ニ付伺

明治十年第七十九号布告ニ依り公賣處分ニ付
シタル月先取特權ハ國稅地方稅備荒儲蓄金其
次ハ區町村會若クハ水利土功會ニ於テ評決シ
タル土木費ト引去リノ順序明治十四年八月伺
定ノ趣ニ有之候處本月八日第三十一号ヲ以テ
徵發費ノ急納者ヲモ該七十九号布告ニ依リ
分メヘキ旨布告相成候ニ付テハ該費ノ順序ハ
土木費ノ次ト心得可然我伺出矣向モ有之候間
至急何分御指揮有之度候也

明治十六年八月三十一日

内務御山田顯義

甲四九乙

太政大臣三條實美殿

明治十六年九月

軍事部長

主査

議官



議官補



陸軍省の後備軍兵服役者養子件

太政大臣

陸軍省に於ける兵部會議ノ旨

議官補選ニ関スル事

陸軍省に於ける兵部會議ノ旨

陸軍省に於ける兵部會議ノ旨

明治十六年九月十八日

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長為議長 議官補選ニ関スル事

別紙陸軍省同後備軍兵服役ノ者屯田兵ノ養子

トナル者ノ件部會議ヲ以テ審査決議スルヲ如ク

本件後備兵服役中ノ者ニシテ屯田兵在役者ノ養

子トナリ其家名ヲ継襲シ且該兵役ヲモ継續スル者

ハ後備軍籍ヲ差除度トノ事ナリ右ハ屯田兵ノ養

子トナリシ廉ヲ以テ曰軍籍ヲ除クヘカラスト雖モ其ノ
家名ヲ継襲シ其ノ役ニ服スルハ同ノ通り後備
軍籍ヲ差除キ可然モノトス

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然式上申進也

指令案

伺ノ趣聞届復事

明治十六年十月九日

明治十六年九月六日

軍事部長

主査



議官

議官補

海軍省何海軍在監人往其規則中改正并
削除件

大
文

Faint handwritten text, possibly a meeting agenda or minutes, including phrases like "明治二十九年九月" and "議官".

明治二十九年九月 日

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長 議官の 議官補

海軍部長 海軍補

議官補
 議官
 海軍補
 海軍部

議官補
 議官
 海軍補
 海軍部

議官補
 議官
 海軍補
 海軍部

議官補
 議官
 海軍補
 海軍部

海軍部

參事

在比等情合宜奉旨准其照例辦理

抄印

仰即遵照

明治十六年十一月八日

明治十六年十一月八日

軍事部長

官



官補



大藏省同恩給及扶助料支給方針

大藏省

Handwritten vertical text in multiple columns on the right page, including the date '明治十六年十月十日' and various official names or titles.

明治十六年十月十日

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長 為 議官 補 甚 多

財務部長 為 議官 補 甚 多 也

別紙士藏者同恩給及扶助料 支給方、件 聯合

部會 議 乃 以 審 査 決 議 之 下 存 也

凡、法律 規則 頒布、以 示 之 及 其 下 得 示

精神 其 基 本 則 爲 示 之 及 其 下 得 示

院

ス

右ニ申テ 坊令案左ノ通ニテ 可然致ニ申ク也

坊令案

同ノ通

明治十六年十月二十日

明治十六年九月四日

軍事部長



議官



議官補



陸軍省伺監獄則制定ノ件

大
文
書

明治三十年九月四日

議長

書記官

副議長

主査 丸山

軍事部長 田中 議官 田中 議官 補 芳村

法制部長 本 議官 海軍部 本尾

別紙陸軍省何監獄刑制定、件聯合部會議より
審査決議云々ト左、如云

本件陸軍監獄刑ハ陸軍部内刑ニ關シテ
法ヲ付何、通陸軍監獄刑ニ關シテ
七十三等明文

陸軍部

二 略、同者限、如等、可然、
右、也、折、在、集、右、也、
可然、上、半、也

折、在、集

何、越、少、和、也、
可然、也、

明治十六年十月二十二日

明治十六年十月 日

議長

書記官

副議長

主査長

軍事部長為 議官 議官補 五、
五、

内務部長為 議官 議官補 五、
五、

別紙海軍省同海軍教官大禮服、件聯合部會議
ヲ以テ審査決議スルコト左ノ如シ

本年第三十五號達ヲ以テ海軍教官ヲ置料
其等級俸給ヲ定メラル、大禮服、制、

至急
文官奏任
其格式
一ニテ相當ト認

本年
以海軍
一ニテ相當ト認

置ト
禮殿ノ制

ナキ
可然哉上申候

賦
九等及

文
七等通

官
省

同
通相定

候條此旨相達候事

明治六年七月七日

大臣

明治六年七月七日

官省院廳府縣

海軍省中五等六等教官大禮服飾章左ノ通相

定候條此旨相達候事

明治六年七月七日

大臣

大臣

ヨラシル又シ文官奏任ニシテ其格式驛速
官ト同一ノ其大禮服モ亦同一ニテ相當ト認

右、理由ニ依リ左、通泐達相成可然哉上申候也

達案

海軍省

其省中五等六等教官大禮服飾章左、通相定候條此旨相達候事

明治六年七月七日

大臣

明治六年八月二日

官省院廳府縣

海軍省中五等六等教官大禮服飾章左、通相定候條此旨相達候事

明治六年七月七日

大臣

明治十六年十月 日

議長

書記官

副議長

主査長

軍事部長

議官

議官補

議官

議官

議官

財政部長

議官

議官

議官

別紙海軍省上申軍人恩給寡婦孤児扶助料支給
方、件聯合部會議ヲ以テ審査決議スルコト左
如シ

海軍卿上申ノ要点ハ海軍恩給令御定ニ付退

隱令ニ照準スヘキト恩給令ニ照準スヘキ経
界ノ却達ヲ希望スルニ在リ因テ右経界ヲ熟
考スルニ一〃廢止セラレ一〃制定セラレシ
者故制定ノ規則ニ明文有ルモノ、外ニ及ク
廢止ニ退隱令ニ依リ既ニ退隱料帶傷及寡婦
孤見扶島料等ヲ受シ者ト雖恩給令ニ適合ノ
者ニ渾テ恩給令ニ推歩シ賜ルヘキヲ正規ト
為スコ如シ然レモ既ニ賜リシ者ニ退隱令ノ
條給與相成ル精神ニ付新恩給令ニヨルヘカ
ヲナルコト明カナリ又九月十一日以後ニ恩

給ヲ賜ルヘキ資格ヲ生セシ者ニ如何ト問ハ
ハ法律ハ既往ニ溯ルヘカラス無論新恩給令
ニ照準スヘキト答ヘハ是又疑ヲ生スヘカラ
ス然ラハ疑團ヲ生スル者ニ恩給令發令前
退隱令ニ依リ退隱料扶島料賑恤金ヲ可賜資
格ヲ備ル者ニシテ未ダ給與セザル者ニアリ
而シテ該件ヲ勘査スルニ三種ノ論点アリ未
一〃新田ヲ比較シ多キヲ可賜トイフアリ
亦二〃既賜ノ田ニヨルヘキ未賜ノ新田ニ
ヘシトイフニアリ亦三〃改正ノ日ヲ以テ經

男ト之新定以後ハ新令ニヨリ新令以前ハ旧
令ニヨルヘ之トイフニアリ而シテ亦一カニ
ノ論点ヲ實施セシトセハ退隱令ニ依リ以テ
資格ヲ備ヘシ者ニシテ既婚者ト未婚者ニ思
遇ハ厚薄ヲ異ニシ其幸不幸ヲ均ラズコト
不能ノ實ナリ曰テハ亦之点ニヨリ其日
ヲ原標ト為シ其前ニ死七及滿期ノ者ハ退隱
令ニ依リ給與シ後來移葬ノ實録及取次ニ於
テモ尚退隱令ニ依リ給與スヘシ是處ノ者ハ
猶テ海軍恩給令ニ依ルヲ公手ト認視ス

右ノ理由ニ依リ右邊案左ノ通ニテ可然致上申
狀也

連署

海軍省

本年亦三十八号達ヲ以テ海軍恩給令ヲ定メ
従前ノ海軍退隱令廢止シ又該恩給令發布前
ニ退隱令ニ依リ退隱料控切料ヲ給付スル事
者及ニ退隱料控切料賑恤令ヲ發布スル事
項ヲ備ヘ御意酌量中ニ候事進退令
然レ修布ス可シ以テ告出スル事

大文

明治十六年十月 日
大改古良

明治十六年十月 日

大改古良

明治十六年十月 日

議長

書記官

副議長

主査
脇山

法制部長水木

議官

議官補

軍事部長代理 中田

議官中田

議官補

長曾 政 祿 應

別紙元老院上奏陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ヲ

禁錮拘留ニ換ナルノ儀審査スル處談案ノ通ニ

テ不都合無之ニ付御裁可相成可然裁此段上申

候也

院

ナキモノヲ新設スル等ニ在ツテ實際ニ適当ノ服制
ト思考候条上申ノ通以テ相成可然モノトス
右ニ由リ違按左ノ通ニテ可然者上申復也

違按

官省院廳府縣

海軍服制別冊之通改正候条此旨相違復事

明治十二年十月二十日

海軍省ノ通牒

明治十六年十一月廿三日

軍事部長為

査

海官



海官補

秋

陸軍省同恩給令取扱方ノ件

林

九月

新編 陸軍省 議官 補給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
議 官 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
議 官 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
議 官 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
議 官 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議

明治十六年十月 日

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長 議官 中 議官 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
財務部長 議官 議 官 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議

別紙 陸軍省 有 伺 恩 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
ヲ 以 テ 審 査 決 議 云 々 左 如 下

陸軍 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
孤 兒 扶 助 料 移 轉 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議
負 傷 死 亡 恩 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議

陸軍省 議 官 補 給 令 取 扱 方 件 聯 合 部 會 議

改正前後は係る者及、既に負傷せられたる者、之を改正後
恩給出給する者、新舊、恩給何れに依るべきや其他
三四項、註點を伺宣ふに在り、因て熟慮せしむ、新
旧恩給令の註點は左條の如く公達せしむ而して
本令の三々條、如く抄令に之を相違し認む
右二中、違ふ抄令を在り、通して可然成上申、也

達書

陸軍省

本年三月三十一日迄、以て陸軍恩給令を改正
し陸軍省事務省事務令を廢止し、之を恩給令

改正前、旧恩給令に依り、恩給科の科罷後任
買得物令に給する者、其後、八年以後、科の備へ給
福中、之係る者、旧恩給令、恩給令
之へは此令を以てす
明治二十九年五月廿一日

右抄令片

内務大臣事務省事務令検査院、通牒

抄令片

伺、取在、通して可然成上申

木下

第一項第二項第三項明治十六年十一月八日産ノ通

第四項 其の科ヲ受クルノ概ナシ

第五項 文及子仕ノ八個月、其及子仕ノ六個

月、引立ニ之文及年級合算不可シ

第六項 兼任文及罷免ノ時ニ於テ其恩給ヲ出

給ス可シ

第七項 恩給ヲ受ケル概ナシ

明治十六年十一月八日

明治十六年十月二日

軍事部長

主査

議

官

議官補

陸軍省付激蕙令第十條ノ件

明治十六年十月 日

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長 為 議官 松村 高 議官補 長

水野 龍平 海軍大臣 松方 義久 陸軍大臣 大隈 重信 外務大臣 桂 小五郎 文部大臣 大谷 友右衛門 逓信大臣 野村 浩将 農商務大臣 高橋 是清 司法大臣 小幡 虎四郎 文相 大隈 重信 首相

別紙陸軍省伺徴護令第十條ノ件部會議ヲ以テ

審査決議スルコト左ノ如シ

徴護令ニ賠償ノ明文ヲ掲ケサルモ、ハ徳テ

賠償ニ及ハサル詭令ノ精神ナレハ本件ニ固

ヨリ其儀ニ及ハサルヲトス

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申ク也

精全集

何ノ通

明治十六年十一月八日

少佐海軍省有函達

明治十六年十月三日

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長^初議官^中議官補長^長 滋惠 古川

財務部長^初議官^初議官補^忠 小池

別紙海軍省伺待命俸非職俸相定度件聯合部會

諸ヲ以テ審査扶議スルコト左ノ如シ

本伺ハ海軍、於テ支障ナキ、ミナラス陸軍

ニ於テモ障碍、廉無之ニ付、可然可成可然

ト認視ス

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

垢台集

付、趣以仰候事

明治十一年十月九日

大和府五層外権書院ノ御様

明治十一年十一月十五日

軍官ノ部長也

之五(秋)

漢官



漢官補



陸軍省上申、憲兵條例中改正ノ件

大和府

参事

明治十六年十月廿六日

議長 山本

書記官 大庭

副議長 中

主査 野

軍事部長 為 議官 中 議官 補 必 吾 等 科 長 及 高

法制部長 也 議官 井 上 議 友 補 田 山 氏

別紙陸軍省上申憲兵条例中改正之件聯合部層
得之心ヲ審査スル事ニ付如左

上申、大旨ヲ擧グルニ、憲兵法正以來事務

漸ク急務ニ及ビ巡察檢察上碍アリテ以テ

陸軍省 先

先づ隊制ヲ改メ現年より一隊ヲ二大隊、各々
之ヲ憲兵隊長即憲兵中隊長、統、右隊長ハ
先少佐ヲ以テ之、任シ又中隊長、次長少佐ヲ
置キ右隊長ヲ兼テ之右隊長トシテ右隊長、副官
中尉ヲ置キ討支軍医、數ヲ確定シ青地、數
ヲ増加セシトスルニ在リ抑憲兵ノ新設實施ニ
ハ明治十四年十月、在リ午後實際、経験ニ
依リ士五七五名トシ九九年ハ名ヲ増加セリ之
ニ今般増加セシトスルニ上長官三名士五一名
此士五二名下士七五名ヲ増加算スルニ僅カク

十三名ノ増加トス然レハ一隊ヲ二大隊、編
制スルノ名アリト雖モ其實新設、時、比ス
レハ三十七名ノ増加ニ過キス而シテ其便益
ヲ与フルヤ大ナリ然レモ己ニ二大隊、編制
ニ用ヒ可儀ヲ以テ若其長ニ任スル時ハ其隊
長即中隊長中佐、止マレハ勢輕キニ過リ依
之右中佐、内ヲ以テ之ニ任セシトスルハ即
先兵聯隊、比シテ其其權衡ヲ得タリトス
又現行條例ハ八条及ヒ第五十四条ヲ削除シ
并四十四条ヲ改正セシトスルハ是レ十五年

亦二十三号初等之基キ可任新案ト以改於案
ノ権ヲ曰ハニニトスルニ由リ其知三十三
乃至第四十條ノ十一ノ條ヲ改メテハ乃係
制変革ヲ付附屬官等ノ職名ヲ改メ其分掌ヲ
明カラスニヨル其現行第三十一條初段ノ
條ヲ改メテハ之ヲ實際ニ徴ニ巡檢警察上
ノ便ヲ圖ルカ爲也
又编制表ヲ削除スルハ是奉陸軍省兵ノ编制
表ニ之ヲ条制中ニ挿入スルガ爲ナルヲナシ
ハ世制中ノニ其编制表ヲ挿入ハ體裁ヲ

失フ者ナリ仍テ今般隊制ヲ変革セシトスル
之際ニ他共ト同一ニ其表ヲニテ添ハセシ
シトスルニ由リ

前如ノ理中ヲ以テ之ヲ考フルニ上申ニ由成
裁可成テ然ト思考ス但改正州案中毎ニ改
正ヲ要ホセザル部外中ニモ取不程者ニ
廉方ニ依テ附屬官等ノ改正可成テ然ト認
視ス

右ニ由リ達案方ニ由リ然裁上申外如

世ノ象

本 政 府

第五十二号

官省院廳外局

明治十四年三月二十号、達官省各等例中左
之旨、改正、事務、各等例、中左

改正、事務、各等例、中左

明治十六年十一月廿二日

明治十六年十一月 日

議長

書記官

副議長

主査長改

軍事部長 田中 議官 田中 議官補 海軍省

別紙海軍省伺海軍服制改正期限、件部會議ヲ
以テ審査決議スル左、如シ

本件服制改正實施期限、其他ニ関係セザル
モノニ付、口者ノ便宜ニ任セラシ可然ト認ム

右然、本年先據、海軍省、口者ノ便宜ニ任セラシ可然ト認ム

海軍省

ト元元ノ新兵器ノ為。特ニ亦以テ相協スニ
内ノ事務ノ為。ト記信云
右ノ旨。以テ奉告。且。多ク。至。テ。申。上。申。上。也

特ニ奉告

伊藤博文

明治十六年十一月五日

明治十六年十一月五日
議長 山田

副議長 田中

書記官 古森

主査 藤原

司法部長 齋藤 官名

議官 補 山田

軍事部長 齋藤

議官 官名

議官 補 藤原

明治十六年十二月五日 大臣 田中 覽 濟

別紙陸軍省報呈生兵日下典三郎死刑決行ノ件
上申候也

大
文
書

明治十六年七月 日

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長官 議員

議員補佐 書記官

別紙海軍省印紙等取装束規則等上申也

明治十六年二月 日

議長

書記官

副議長

主査多

軍事部長之議官

議官補佐長以能

加任表打定、毎上申、也
 加任表打定、毎上申、也
 加任表打定、毎上申、也

參事院

參事院

陸軍省同屯田兵犯取番方一併

軍事部長官

海軍省

陸軍省

陸軍省

明治十六年十一月三十一日

軍事部長官

海軍省



海軍省



陸軍省同屯田兵犯取番方一併

參事院

參事院

明治十六年十一月七日
陸軍省
議官補
山昭 具定清浦

明治十六年十一月七日
議長

書記官

副議長

主査 秋月

軍事部長 山

議官 山

議官補 山昭 具定清浦

法制部長 水

議官 山

議官補 山昭 具定清浦

別紙陸軍省伺屯田兵犯罪處分ノ件聯合部會議
ヲ以テ審査決議スルノ如左

本件ノ旨趣ハ先般開拓使被廢所屬屯田兵陸
軍省ニ屬セラレタリト雖モ將校以下固ヨリ
陸軍々人ト其生質ヲ異ニスルニ依リ犯罪ノ
如キモ常人同様ニ處分セラル可ラス然レモ
軍事ニ関シ罪ヲ犯シタル時ハ陸軍治罪法第

大文官

右

二十一條ニ依リ軍法會議ニ付ス可キモノト
ス然ルニ其屯田所在地ニ軍法會議ヲ設ケ未
タ之アラサルヲ以テ最近ノ地即青森營所軍
法會議ニ護送處分セントスルニ在リ右ハ至
當ノ便法ト認視ス
右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可然我上申候也
指令按ノ
伺ノ趣聞届候也

明治六年三月十日

明治六年十一月六日

議長

書記官

副議長

主査長

軍事部長田中 議官少 議官補佐 議官多 議官多

別紙海軍省上申技術官官等并給額改正ノ件部
會議ヲ以テ審査決議スルコト左ノ如ク

海軍ノ技術ハ專ラ艦船汽機及兵器彈藥ノ製
造ヲ主トスルヲ以テ其工拙生熟ハ戰ノ勝敗
國ノ安危ニ關スル尤至重ノモノナリ是故ニ

其人物タルモ亦知識學術ヲ兼備スルニ非サ
 レ、其任ニ勝ユヘカラス技藝練磨、實力ナ
 ケレハ其職ニ適シ難シ因テ、官位付給其當
 ヲ得サレ、其人ヲ得ルコト雖キ、自然ノ情
 勢ニ付海軍卿上申ノ如ク勅任官ヲ新設シ奏
 任官ノ名額ヲ改正シ其俸給加増ハ勅差判任
 共別表ノ通定スル事ト祖傳ス且一般ノ欠乏ニ
 取備シ定例ナシト宣長大物工部両省ノ技術
 官ニ通例有之ニ據リ是又口被設ラレ且南卜
 忍但神隱匠ノ事、他ノ規則ニ定ムル事ニ付亦表ノ
 賜方ハ相階スルヲ能ハス

右、理由ニ依リ左、通達セラレ可然哉上申候
 也

遺案

予々々々
 官省院廳府縣

海軍省中技術官其名称等級俸給別表、通相
 定候條此旨相達候事

明治二十三年三月十五日
 大政大臣

海軍省

其省中技術官其名称等級俸給別表、通相定

大政大臣

候條此旨相達候事

明治十五年十一月十九日

太政大臣

外務大臣 青木 義典

明治十六年十一月

軍事部長 為

之直

海軍官

海軍補

海軍省同海軍兵官補募規則改正ノ件

大 文 書

大政官

海軍省海軍兵員徵募規則改正ノ件

議官 田中

議官 渡辺

議官 田中

明治十六年十月

議 長 田中

書記官 大森

副議長 田中

主査長 渡

軍事部長 田中

議官 田中

議官 補

渡 秋田 田中 大森

別紙海軍省海軍兵員徵募規則改正ノ件部會議ヲ
以テ審査決議スルノ如シ

海軍兵員徵募規則実施上不都合ノ虞アルヲ以テ改正
按付出スリ因テ之ヲ閱スルニ誤則ニ明治五年九月ノ制定ニ
係リ改正セサルハカラスル條々勘レトセス然ルニ本按ニ徵兵

令改定ノ旨意ヲ辨ハスシテ起筆セシモノニ在完全整
倫セラルル以テ更ニ別冊ノ如ク修正布達ヲ以テ頒布
相成リ然ト認ム

右ニ由リ布達案左ノ通ニテ可成者上申候也

布達案

海軍志願兵徵募規則別冊ノ通ニテ之

右布達案

明治二十六年十二月十一日

太政大臣

海軍卿

海軍省ノ通牒

明治二十六年十一月十一日

軍事部長

ニ在

海軍省



海軍省



陸軍省上申云官給婚係例 第七各条ハ陸ニ加
件

明治 年 月 日

議長

書記官

副議長

主査官

軍事部長之

議官^之

議官補^之

近田、多田、三白

別紙

別紙陸軍省上申武官結婚條例第七條第八條一
追加ノ件部會議ヲ以テ審査決議スルノ左ノ如

ニ

陸軍武官結婚條例第七條第八條ニ但書ヲ加
ヘ恩給ヲ受ルノ權ヲ有スル者ニシテ結婚セ

終
完

シトスルトキハ家計保護金ヲ納ムルノ限リ
ニ在ラサルノ旨ヲ明示セントスルニ在リ石
ハ本例第十一條第二項ニ照セハ自カラ明了
ナリ必シモ追加ノ達ヲ要セサル者ノ如シ
右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可然我上申候也

指令按

上申ノ趣本條例第十一條第二項ニ基ツテ家計
保護金ヲ納ムルニ及儀ト可相心得事

明治十六年九月三日

明治十六年九月 日

議長

書記官

副議長

主査

軍事部長

議官

議官補

別紙陸軍省上甲撥兵令改正ノ件部會議ヲ以テ
審査決議スルコト左ノ如シ

本件ハ軍備上止ムヲ得サレ事ニミテ今日ノ
形勢ニ在テハ速ニ御改正可相成ルト認ム
右ニ由リ布告並左ノ通ニテ可然我上申候也

布告案

激兵令別冊ノ直改正ス

右奉勅旨布告案

大政大臣

陸軍大臣

海軍大臣

列冊成案ノ趣

明治十五年十二月

軍事部長

本查

議官



議官補



別紙三重縣同徽發令申疑義ノ件

大政官

參事院

軍事部

明治十五年十二月
議官補
議官
主査
軍事部長
議官
議官補
主査
軍事部

明治十五年十二月

軍事部長

主査

議官

議官補

別紙鹿兒島縣伺徴祭物件輸送賃及賠償金
等ノ件

本
取
書

明治十五年十二月

軍事部長

主査

議官

議官補

別紙青森縣同發令中不明瞭ノ件



明治十五年十二月

軍事部



主査

議官



議官補



別紙三重縣同徴發令中疑義ノ件

Handwritten notes and stamps on the right edge of the page, including the characters '如' and '正'.

明治十五年十二月

軍事部長

主査

議官

議官補



別紙滋賀縣伺徴發令中疑議ノ件

政官

明治十六年二月十日

軍事部長

之五



海官

海官補以



陸軍省所問陸軍武官進級條例第七條中
件

三ノリヤ

大正

大
政
官

明治十六年二月廿六日
議官補
議官
軍事部長

明治十六年二月廿六日

ニリ
九
七
三
日

主査

軍事部長

議官

議官補



高知縣伺徴發令第八條實義ノ件

大
政
官

大正
政
官

憲法機關規程令第六號附錄

軍事部員名

總長

副總長

正官

明治十六年三月廿六日

三ノノチノチノチノチ

明治十六年三月廿七日

軍事部長

之直



議

官裁

議官補



山梨縣同僚及令中疑義ノ件

大正
政
官

大
政
官

明治十六年三月九日
陸軍省
陸軍大臣
大塚
三

明治十六年三月九日

三

軍事部長

之直

海軍大臣

海軍大臣

○

○

○

○

陸軍省
陸軍大臣
大塚
三

大
政
官

明治十六年三月廿一日

軍事部長

海軍大臣

海軍補

三直贊

長

憲

章

章

陸軍省臣向海軍令同事務條例中

於

林
敏
信

政
官

御 詔 下 六 三 一 一 月 七 日

ルリカク

軍 事 部 長



之 重



海 官



海 官 補



陸 軍 省 長 向 海 官 部 長 一 等 海 官 補 官 三 名 中
林 義 一 氏

林 義 一 氏

大 政 官

明治十六年四月十日

軍事部長



議官



主査



議官補



内務省實議徴奏令中疑義ノ件

大政官

大政官

明治十六年四月十七日

四月十七日

軍事部長

代理



主査



海官



海官補



海軍省管内退隱令第二号ノ件

海軍省

海軍省管内退隱令第二号ノ件
明治十六年四月十七日

明治十六年五月十四日

軍事部長

澤 官

澤 官 補

之 五



青森縣區問答發令第三十号中一節之件

林 敬 書

林 敬 書

明治十六年五月廿二日

三〇二二

軍事部長



之五



海

官



海軍補



陸軍省原河滿意事 陸軍省原河二十條 喝ケタル 議
張令其十二各条一項ニ掲ケルモノ、賦課法ノ件

林 敬 言

林 敬 言

明治十六年五月三十日

軍事部長也

主査

議官



議友補



福井縣實問遊藝會中懸義、件

奉
返
書

奉
返
書

明治十六年六月

軍事部長

議官



議官補

主査



鹿児島縣實洞嶺駐合中隊

林 俊 吉

政 府

大正
政
府

[Faint vertical text in columns, likely bleed-through from the reverse side]

明治十六年二月

王查



軍事部長 湯官



湯多補

内務省管内滋養令疑義一併

大正
政
府

林政館

Blank columns for text on the right page.

明治十六年一月十三日

軍事部長

臣 吉野

海軍

海軍補

愛媛縣海軍令第三十番 輸送部 五號 一件

林政館

政官

カクニノ...

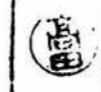
明治十六年九月十九日

軍事部長

主査

議官

議官補



愛媛縣實例徴發令第三十條中疑義ノ件

大政官

明治十六年九月十九日

軍事部長為

海官



海官補

主査



京都行向陸軍滿期下士官採用規則ノ
件

大
政
官

大
政
官

明治十六年十月三日

軍事部長

議官

議官補



徴兵令ノ義ニ付陸軍省ヨリ照會ノ件

大
政
官

明治十六年十月三日

陸軍省

大
政
官

議官

議官補

陸軍省 大政官 議官 議官補

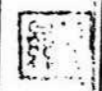
大
政
官

大正
政
官

海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍

明治十六年十月

軍事部長



主査

海軍省同海軍



海官補



海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍
海軍省同海軍

海軍省同海軍

明治十六年十一月十九日

ノリノリ

軍事部長

ニシテ

後官



後官補



福井縣白濁患者取締例第四十一各件

伏
致
書

参
事
官

明治十六年十一月廿九日

主査



軍事部長 議定 議定補



陸軍省發回徵兵令ノ件

陸軍省發回徵兵令ノ件

陸軍省發回徵兵令ノ件

明治十六年十一月廿九日

軍事部長

之丞

賞官

賞補



陸軍大臣、満蒙賜金、陸軍大臣、永修、
傳、二、件

十七年一月九日

明治十六年十二月廿一日

軍事部長

議官



議官補



真



京都府伺徴令第十二條第一項ノ件

大文部

水戸